

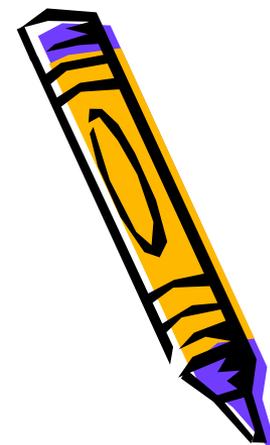
第5回「将来ビジョン検討会議」
「新しい人間像」

2010年2月16日(火)

福井県民のライフスタイルの特徴と変化
ーエリア・スタディーズの視点からー

福井県立大学 看護福祉学部
准教授 塚本利幸

福井県の地域特性1

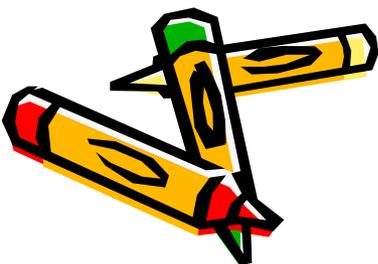


・人口 825,880人 第43位

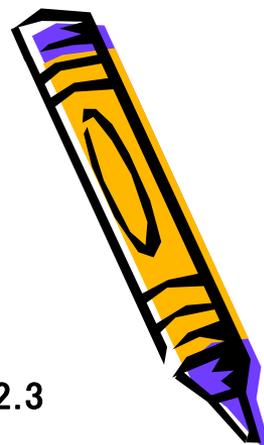
・新国民生活指標(豊かさ指標) 1994年～1999年まで 5年連続第1位

経済企画庁の発表していたもので、貨幣的な指標では捉えきれない生活の「豊かさ」を「住む」「費やす」「働く」「育てる」「いやす」「遊ぶ」「学ぶ」「交わる」の8つの分野から測定し、都道府県別に算出していた

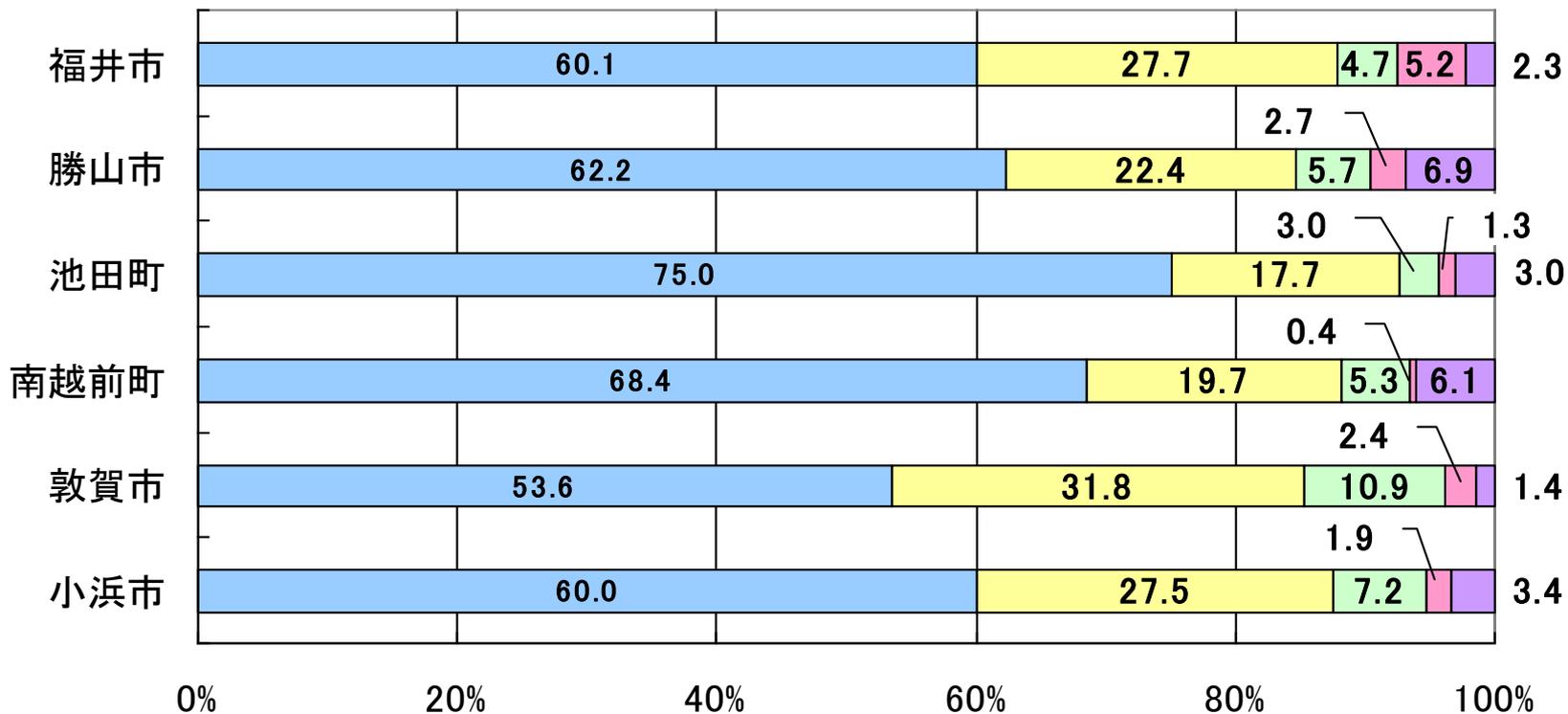
・平均寿命(平成17年)	男性 79.47歳(第4位)	女性 86.25歳(第11位)
(平成12年)	男性 78.55歳(第2位)	女性 85.39歳(第2位)



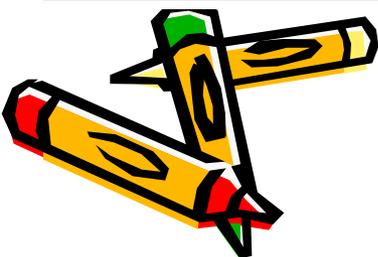
◇福井県の暮らしやすさに関するデータ



今後も福井県で暮らし続けたいか



■ 1. 暮らし続けたい
 ■ 2. どちらかといえば暮らし続けたい
 ■ 3. どちらかといえば暮らし続けたくない
 ■ 4. 暮らし続けたくない
 ■ 無回答



◇データの出所 (アンケート調査1)

福井県

「なぜか健康長寿」を考えるアンケート

— 「こころ・からだ・しゃかい」の視点から—

調査への協力をお願い

平成20年1月

福井県立大学健康長寿共同研究
研究 代表 交野好子
総括班 代表 杉村和彦

福井県民の皆様へ

新春の候、皆様には、お健やかにお過ごしのことと存じます。

福井県では、健康長寿の推進のための様々な取り組みが行われてきました。そして、今後もよりいっそうの努力が求められています。

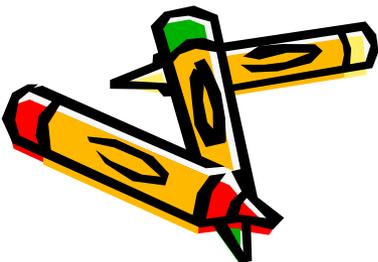
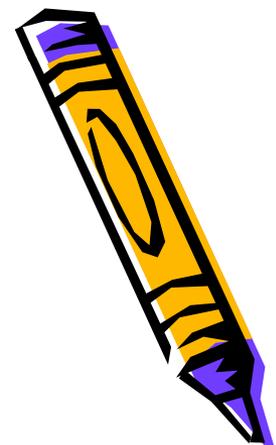
そこで、このたび、福井県立大学では、共同研究（代表：交野好子副学長）で、福井県の健康長寿の要因を、「こころ」、「からだ」、「しゃかい」という三つの視点から検討する、アンケート調査を実施することにいたしました。この調査は、21世紀の福井県の活力を考えていく上での基礎資料として活用させていただくものです。

お忙しいなか、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力下さいますようお願いいたします。

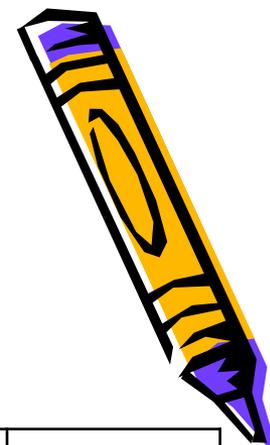
記

- この調査をお願いするにあたりましては、福井県にお住まいの20歳以上の方々から、統計的手法にもとづき無作為に2700人を選ばせていただきました。
- このアンケートは無記名です。また、この調査は上記の目的以外では一切使用いたしません。ご回答いただきました内容は、全体として集計した結果を使用いたしますので、個人の回答内容が他者に知られる等により、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。
- 調査結果のまとめは、今後、福井県立大学のホームページなどを通して、皆様にお知らせする予定です。
- ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

福井県立大学学術教養センター杉村研究室 Tel.0776-61-6000 (内線2602)
担当 杉村和彦(教授)



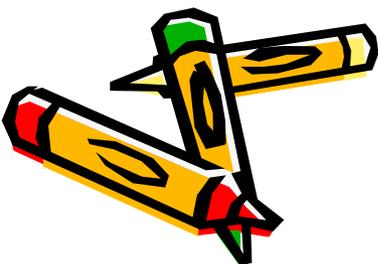
◇アンケート調査の概要



市町	対象学区	人口	配布数	調査方法	有効回答数	回収率
福井市	春山小学校区	5,882	500	郵送法	213	42.6%
勝山市	野向小学校区	834	710	配票法	490	69.0%
敦賀市	旧松原小学校区	13,497	500	郵送法	211	42.2%
小浜市	小浜小学校区 +雲浜小学校区	9,724	500	郵送法	265	53.0%
池田町	池田町	3,237	500	郵送法	232	46.4%
南越前町	南条小学校区	5,882	500	郵送法	228	45.6%

◇調査対象者の選定方法

福井市、敦賀市、小浜市、池田町、南越前町は住民基本台帳から系統抽出法による無作為抽出、
勝山市は区長に依頼して20歳以上のすべての住民を対象に全戸配布



◇データの出所 (アンケート調査2)

男女共同参画社会の実現に向けて －女性の就業と生活の質に関するアンケート調査－

調査への協力をお願い

平成15年6月

福井県民の皆様へ

陽春の候、皆様には、お健やかに過ごしのことと存じます。

現在、男女共同参画社会の実現に向けて、国や都道府県、市町村による様々な取り組みが行われつつあります。男女共同参画社会を実現するためには、様々な課題が横たわっています。福井県の場合、女性の就業率が全国第1位と女性の社会進出が進んでいる一方で、それに見合う形で意思決定過程への参加や家庭内での家事分担が実現されているかどうかが問題になってきます。

そこで、このたび「福井県の労働と福祉研究会」（研究代表者 福井県立大学講師 塚本利幸）では、福井県大学等学術振興基金の助成によって、福井県にお住まいの方々に、女性の就業と生活の質について、アンケート調査を実施することにいたしました。この調査は、女性にとつての望ましい働き方について考える上での基礎資料として活用させていただくものです。

お忙しいなか、お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

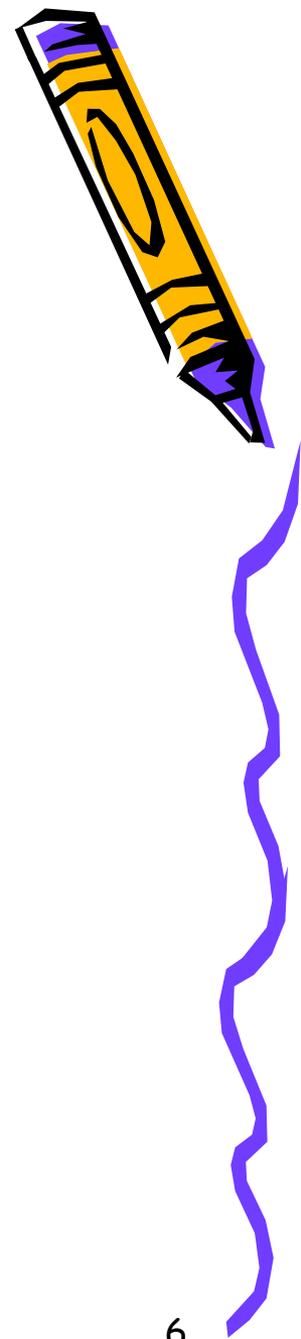
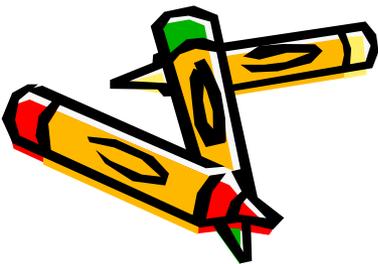
記

- この調査をお願いするにあたりましては、福井県にお住まいの20歳以上の方々から、統計的な手法にもとづいて無作為に、2,000名を選ばせていただきました。
- このアンケートは無記名です。また、お答えいただいた内容は、すべて数字になおして集計いたしますので、プライバシーに関してご迷惑をおかけすることは決してありません。
- この調査は上記の目的以外では一切使用いたしません。

■ご記入にあたって

- ・この調査は、個人を対象といたしております。回答は宛名のご本人ご自身でお願いします。
- ・質問によって「1つ選んで」「3つまで選んで」「該当するものすべてに」といった断り書きがしてありますので、回答数にご注意下さい。
- ・回答が「その他」にあてはまる場合には（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ・ご記入いただいたあと、記入もれ等がないかもう一度お確かめの上、用紙をそのまま折りたたんで、同封の返信用封筒にて、6月29日（日）までにご投函下さい。
- ・ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

福井県立大学 塚本利幸研究室 電話：0776-61-6000（代）



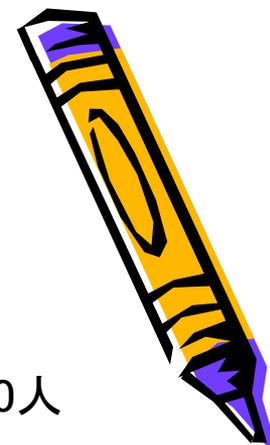
◇アンケート調査の概要

20歳以上の福井県民652170人から層化2段無作為抽出法によって2150人の調査対象者を選び、郵送法によるアンケート調査を実施。

1段目では、福井県の35の市町村を保健医療区を単位として4地域に層化、地域ごとに確率比例抽出法を用いて調査地点(計20市町村)と、調査地点ごとの標本数を決定。

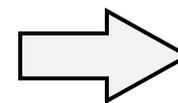
2段目では、調査地点ごとに選挙人名簿を抽出台帳として系統抽出法によって調査対象者を無作為抽出。

有効回答数は945、有効回収率は44.0%。

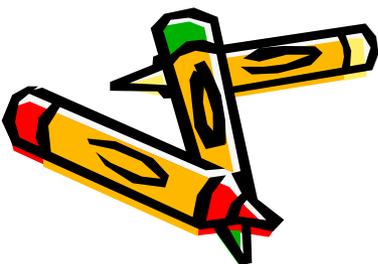
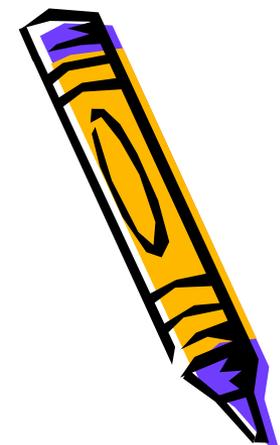


福井県の地域特性2(社会的特質)

1. 定住性の高さ
2. 三世代同居率の高さ
3. 持ち家比率の高さ、住宅の延べ面積の広さ
4. 共働き率の高さ(女性の労働力率の高さ)
5. 兼業農家率の高さ
6. 世帯あたりの実収入や貯蓄残高の多さ
7. ボランティア活動の活発さ
8. 未婚率の相対的な低さ、合計特殊出生率の相対的な高さ

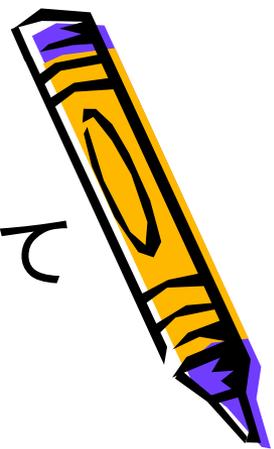
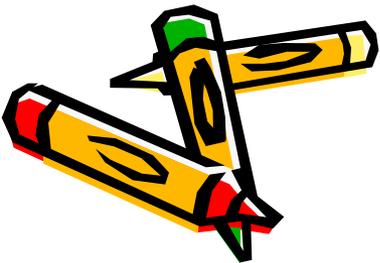


安定性
均質性
保守性



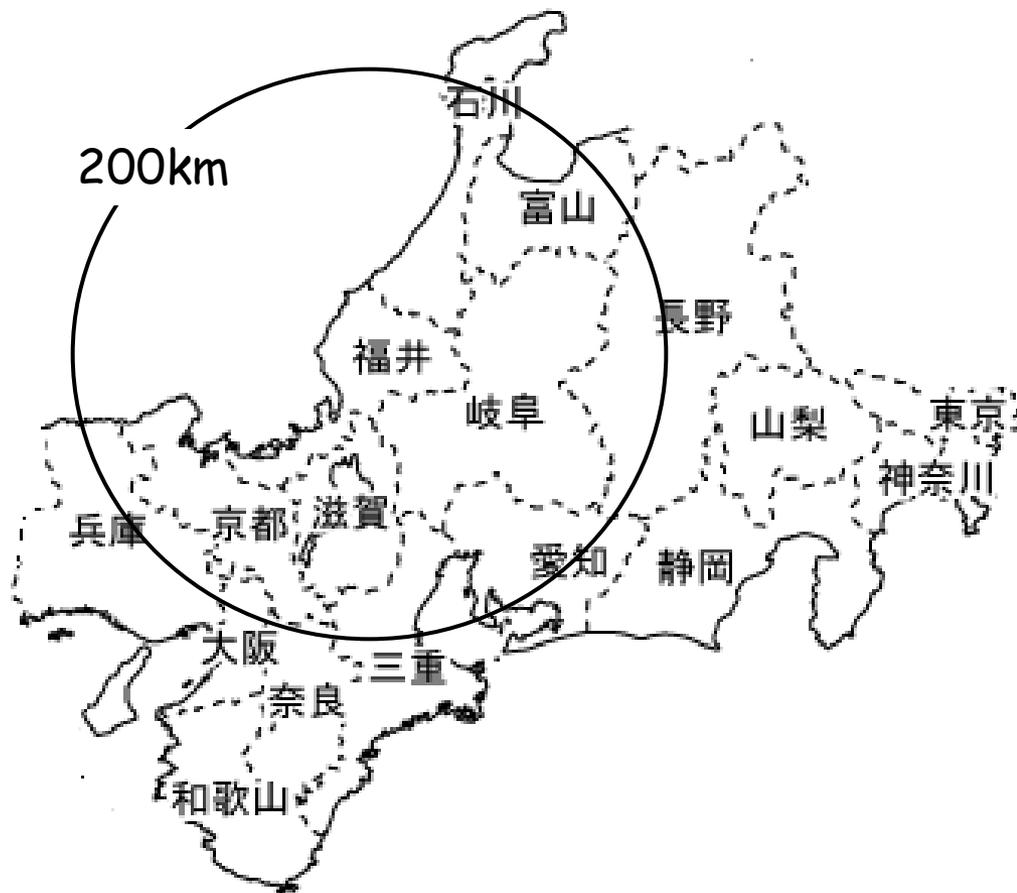
1. 福井県民のライフスタイルの特徴について

ライフスタイルの特徴に関わる福井県の地域特性は、
どのようにして形成され、関連しあい、維持されているのか？



◇福井県の地理的位置

2つの大都市圏(京阪神と名古屋)まで、
半径200km



◇福井県の地理的位置

・大都市圏に隣接する府県(埼玉、千葉、三重、滋賀、等)の場合

人口の流入(通勤圏への組込／ベッドタウン化)

若年の単身世帯、核家族世帯の増加

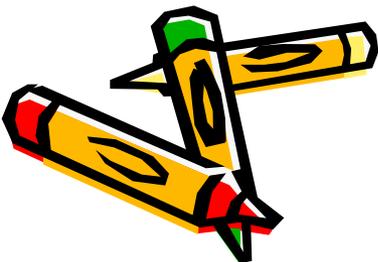
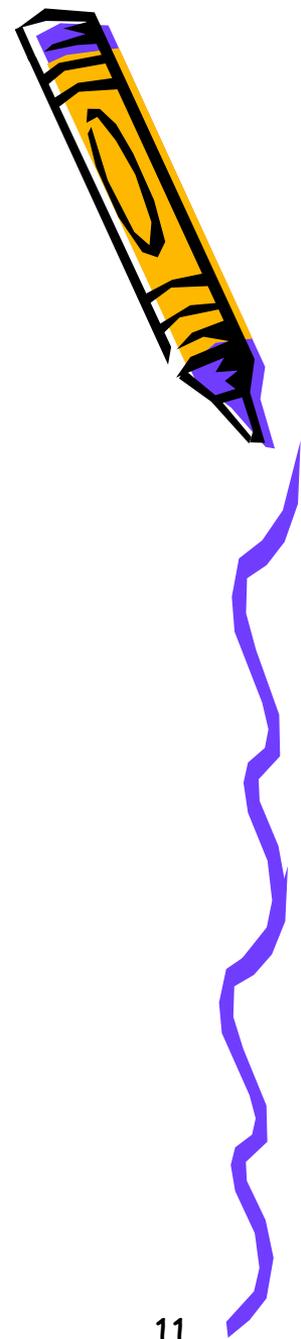
地価の上昇

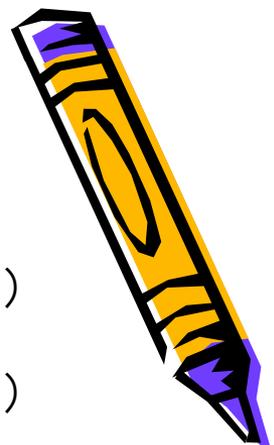
・大都市圏から遠い府県(青森、高知、等)の場合

人口の流出(就学・就職を契機に若者が流出)

高齢の単身世帯、二世帯世帯、夫婦のみ世帯の増加

過疎化、高齢化の進展



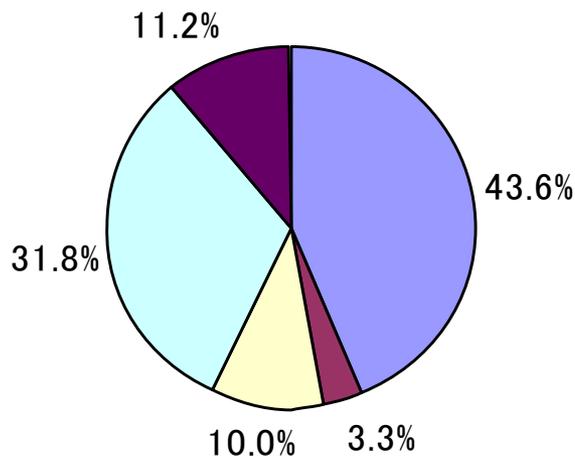


◇定住社会としての福井

- ・人口転入率(転入者数／総人口) 1.24 第44位 全国(2.03)
- ・人口転出率(転出者数／総人口) 1.49 第44位 全国(2.03)

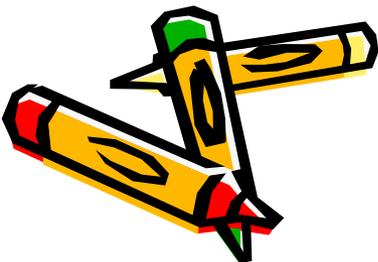
総務省統計局『社会・人口統計体系』平成20年

現在暮らしている市町村への移住経路

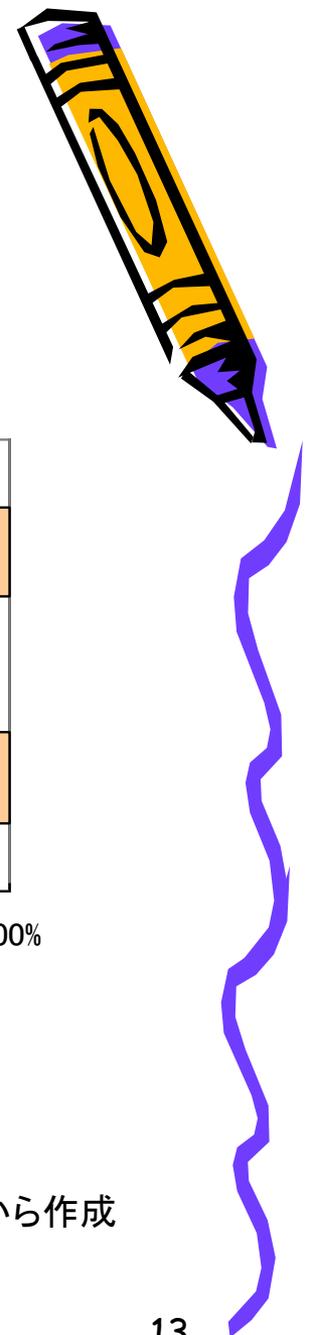


■ ずっと住み続けている	■ Uターン(県内から)
□ Uターン(県外から)	□ 県内の他市町村からの転入
■ 県外からの転入	

『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』
(平成15)のデータから作成

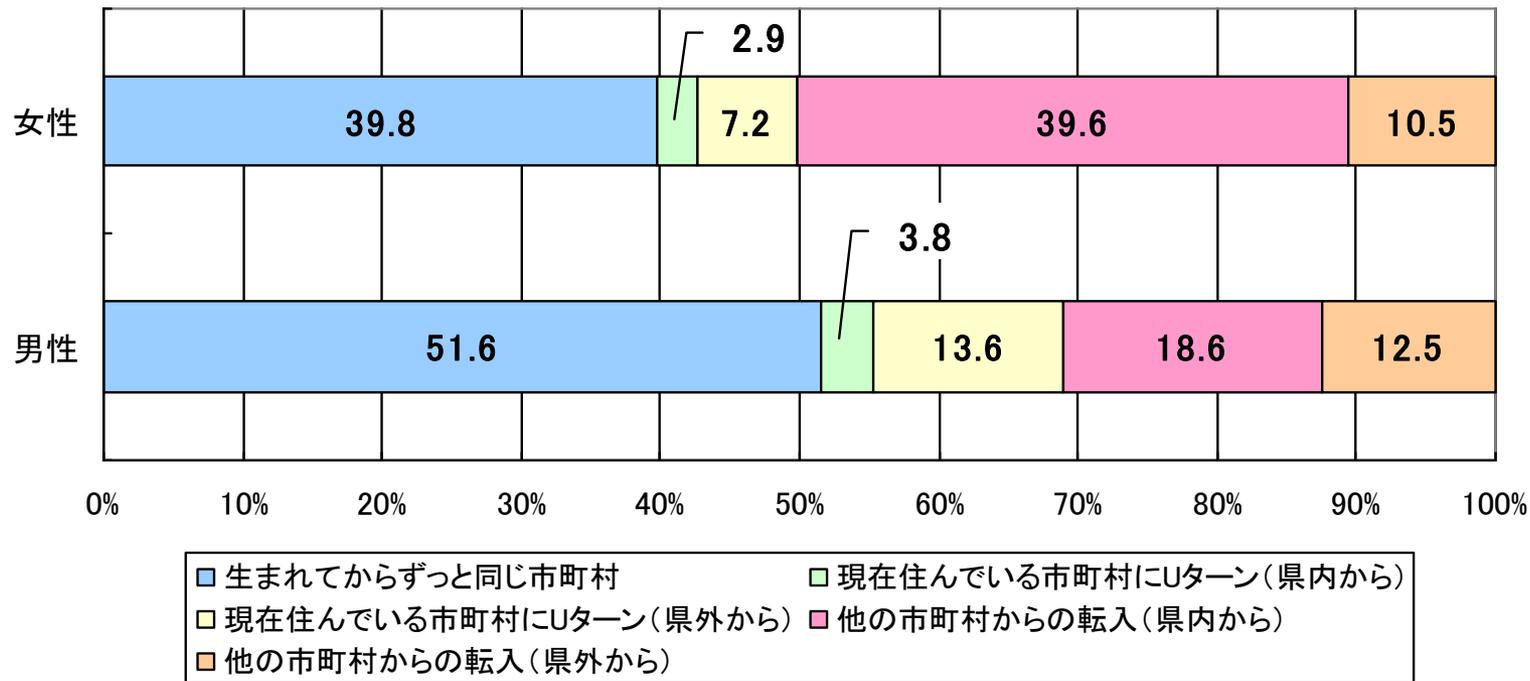


◇定住社会としての福井



現在暮らしている市町村への移住経路(男女別)

漸近有意確率(両側)
P=0.000



『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

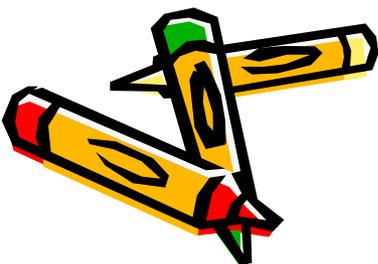
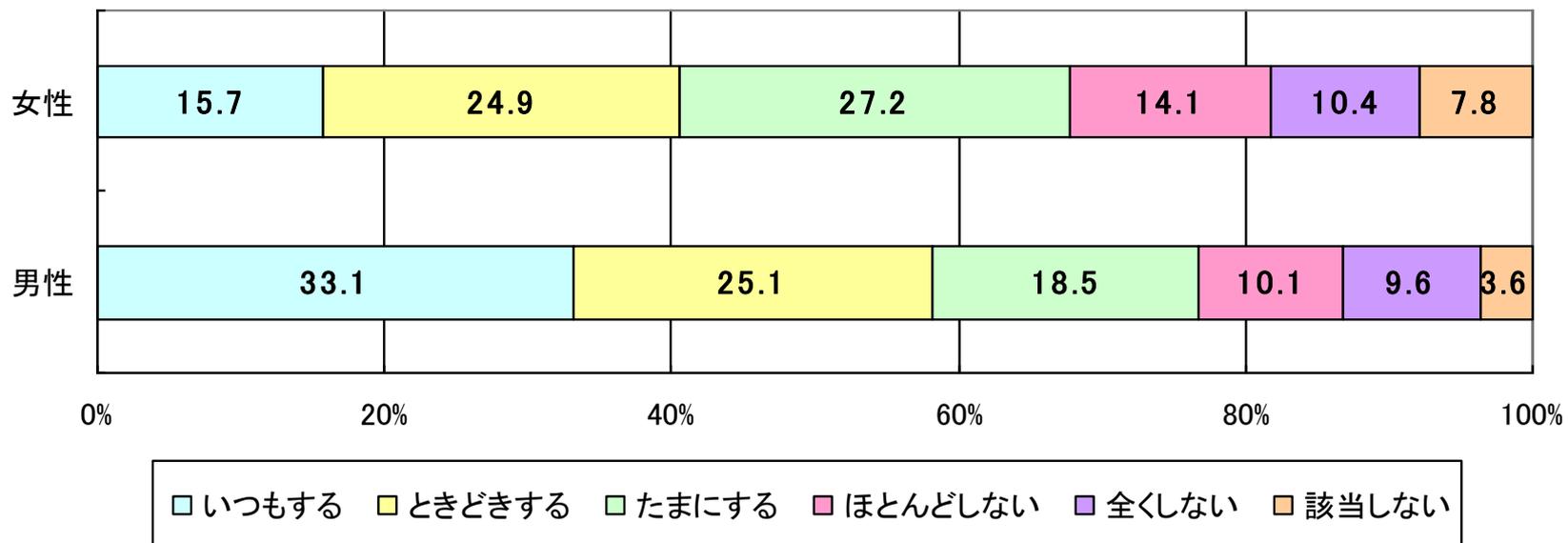


◇地域コミュニティとの関係



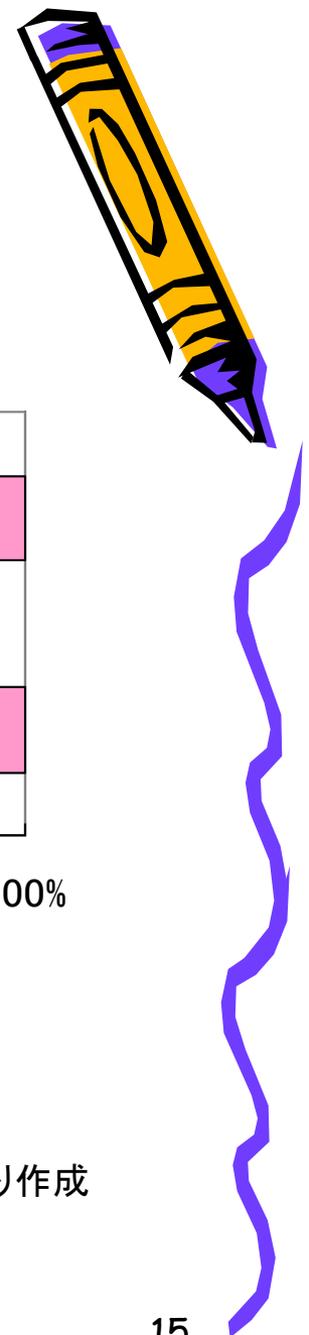
自治会などの地域活動(男女別)

漸近有意確立(両側)
P=0.000



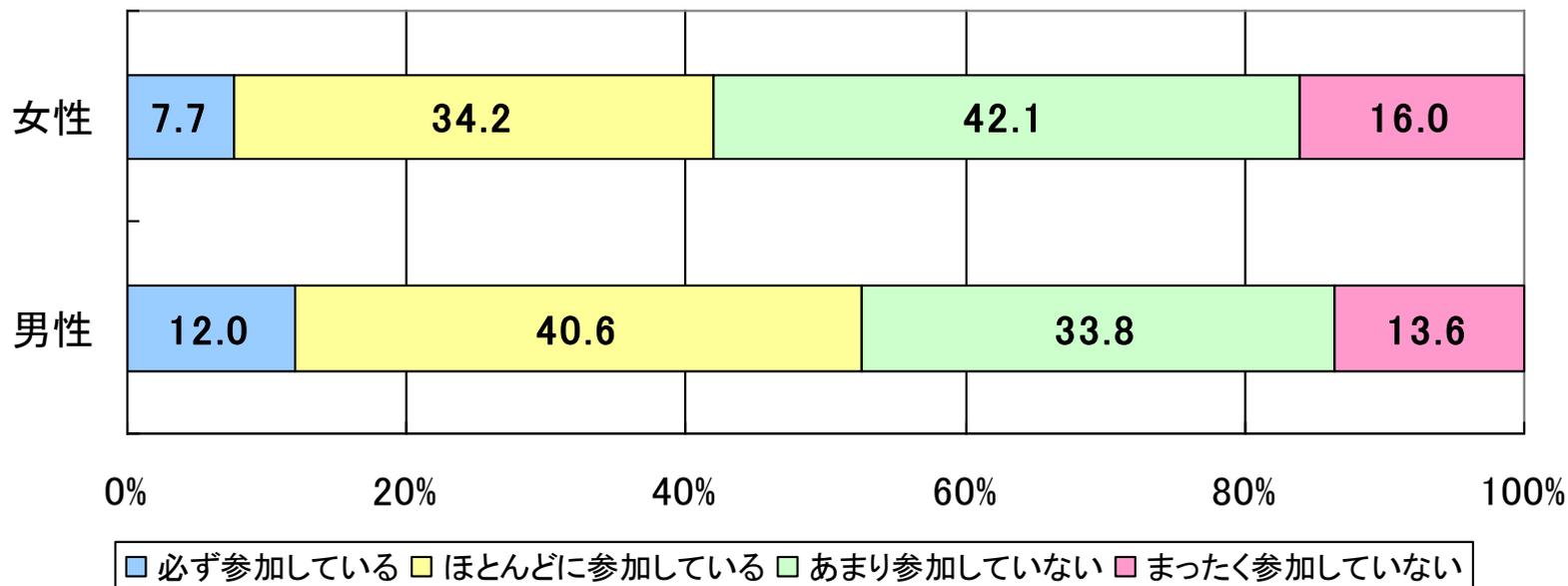
『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

◇地域コミュニティとの関係



漸近有意確立(両側)
P=0.000

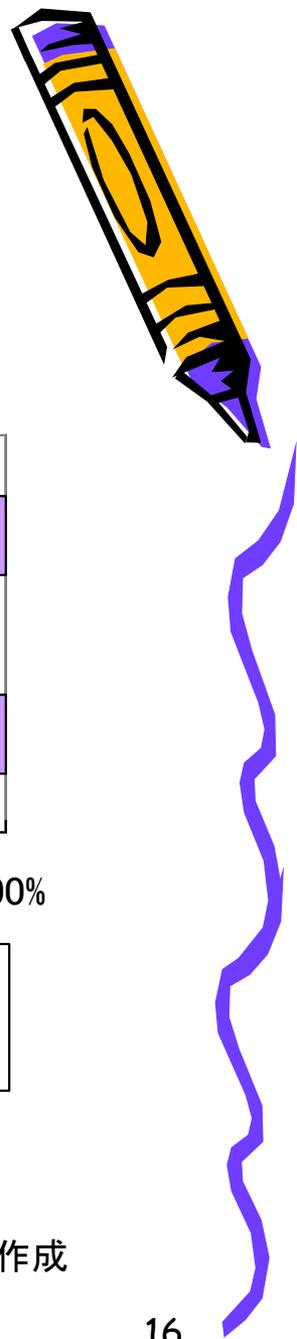
地域行事[祭りやイベント]への参加頻度(男女別)



福井県「なぜか健康長寿を考える」アンケート(H20)のデータより作成

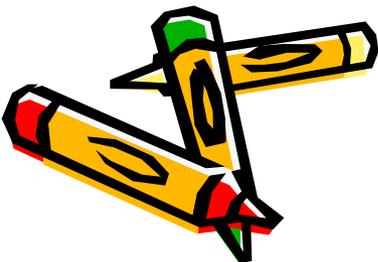
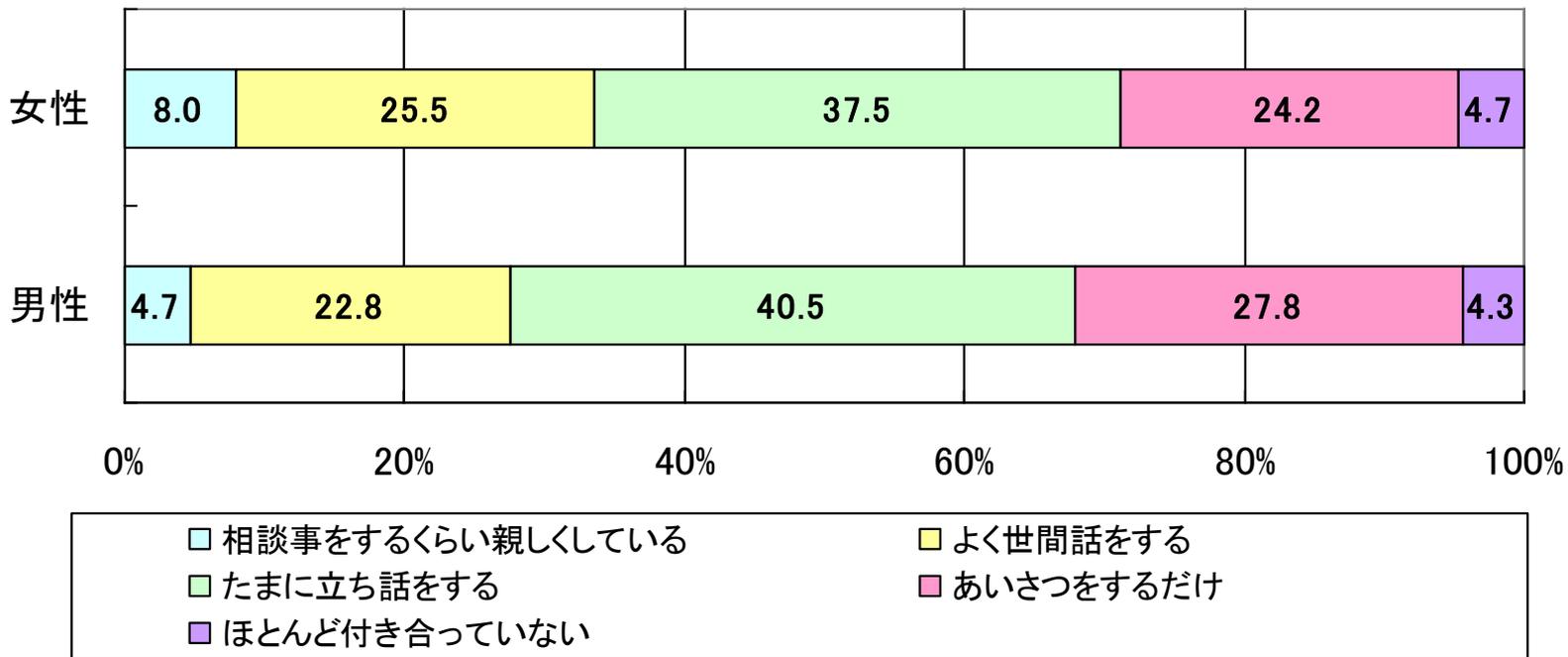


◇地域コミュニティとの関係



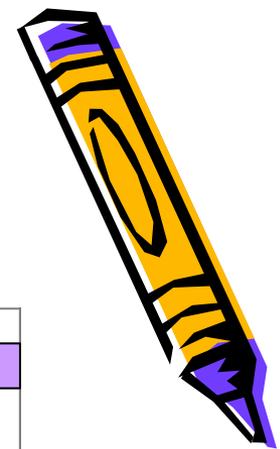
漸近有意確立(両側)
P=0.025

近所との付き合いの程度(男女別)



福井県「なぜか健康長寿を考える」アンケート(H20)のデータより作成

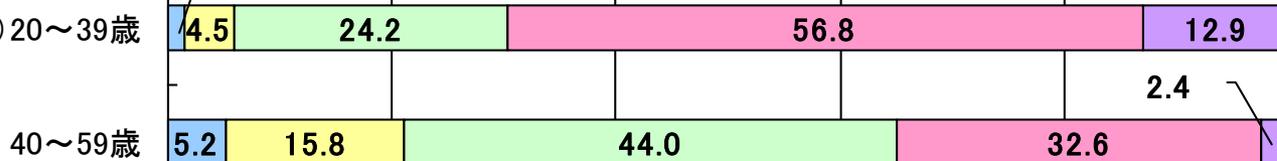
◇地域コミュニティとの関係



近所との付き合いの程度(男女・年代別)

[漸近有意確率(両側)]

女性 (P=0.000) 20~39歳



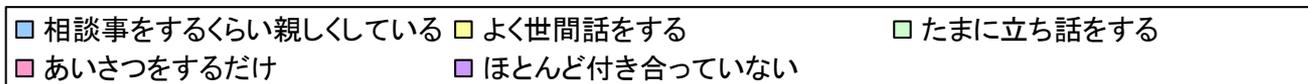
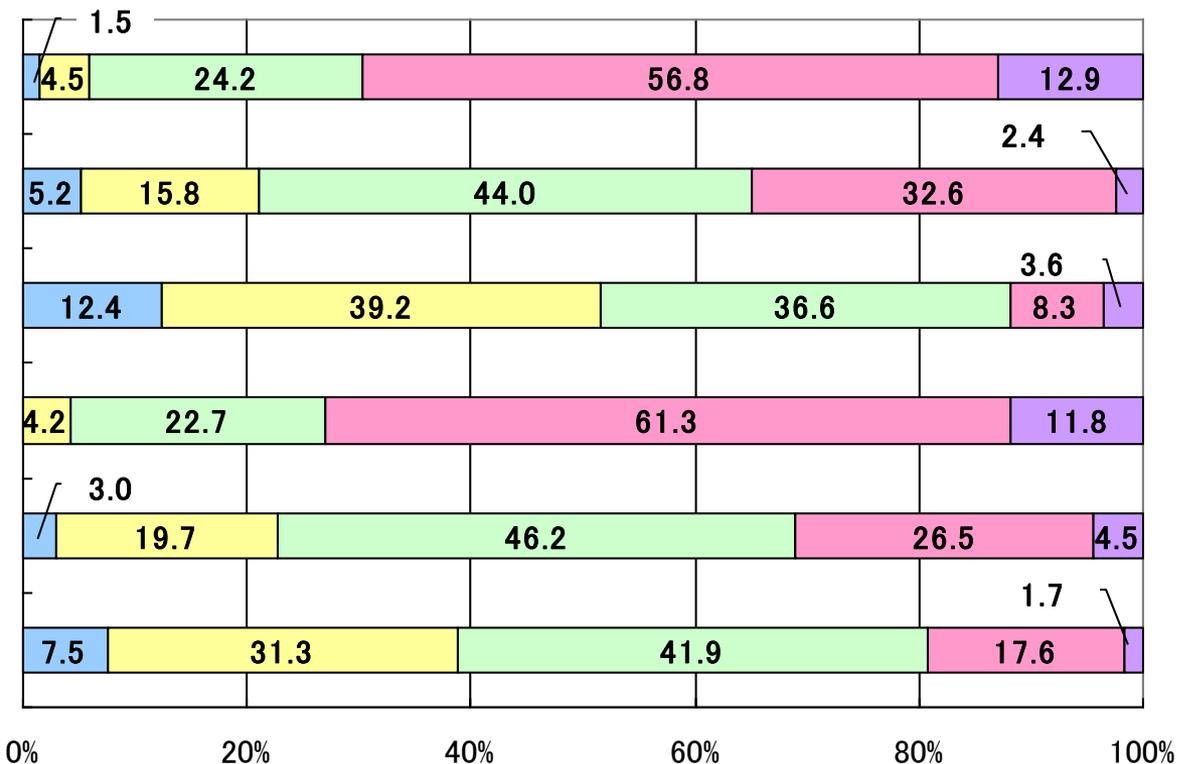
40~59歳

60歳以上

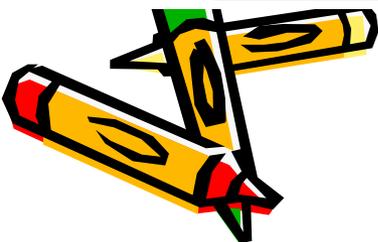
男性 (P=0.000) 20~39歳

40~59歳

60歳以上



福井県「なぜか健康長寿を考える」アンケート(H20)のデータより作成



◇定住社会としての福井

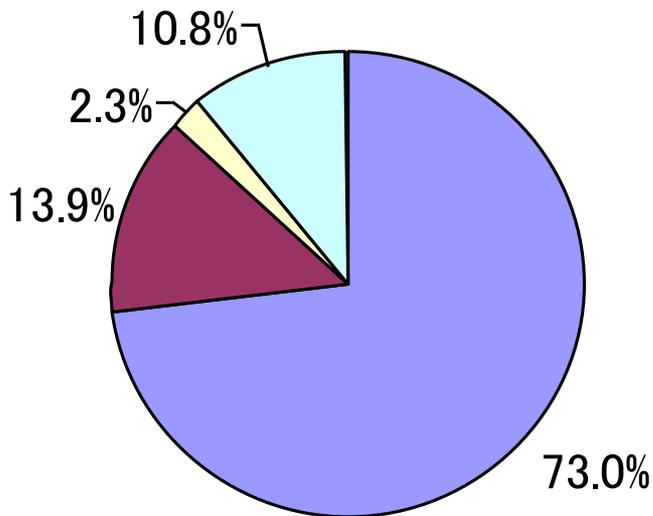
- ・流入人口比率 0.83%
- ・流出人口比率 0.66%



通勤圏も県内完結型
(職住近郊型社会)

総務省統計局『社会・人口統計体系』平成20年

通勤時間(片道)



■ 30分未満	■ 30分以上1時間未満
■ 1時間以上	■ 無回答



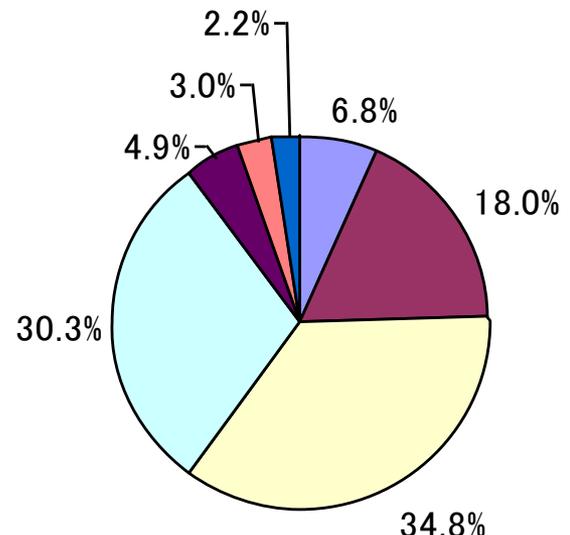


◇福井県の世帯構造と住居

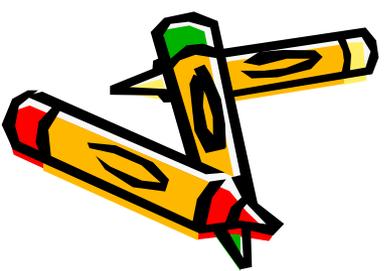
- ・3世代同居世帯の割合(対一般世帯数) 20.2% 第2位 全国(8.6%)
- ・核家族世帯の割合(対一般世帯数) 52.0% 第40位 全国(57.9%)
- ・一般世帯数の平均人員 3.00人 第2位 全国(2.55人)
- ・65歳以上の親族がいる世帯割合(対一般世帯数) 45.0% 第8位 全国(35.1%)

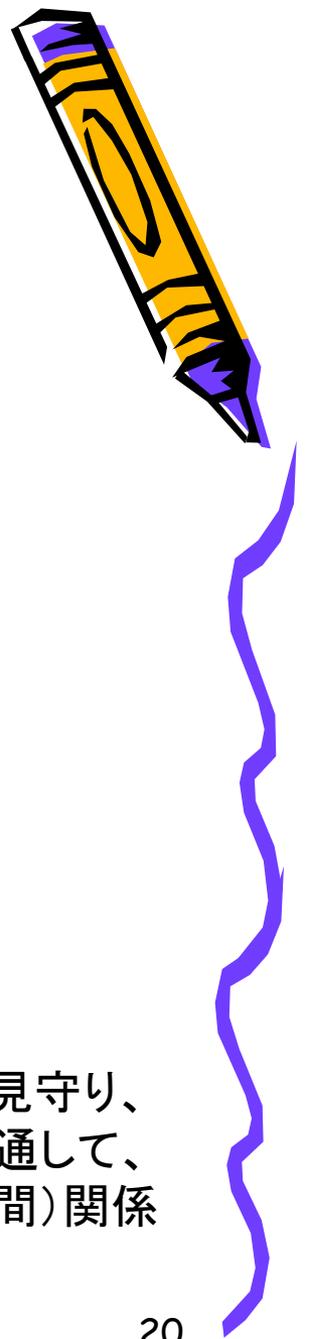
家族構成(6区分)

総務省『国勢調査報告』平成17年



■ 単身者世帯	■ 夫婦のみ世帯	□ 2世代世帯
□ 3世代世帯	■ 4世代以上世帯	■ その他の世帯
■ 無回答		





◇福井県の世帯構造と住居

3世代同居率の高さは福井県の大きな特徴ではあるが、
そうした世帯は県内でも少数派にとどまる



福井県の社会的な特質を考えるときには、
「福井型の修正拡大家族」に注目する必要がある

◇福井型の修正拡大家族とは

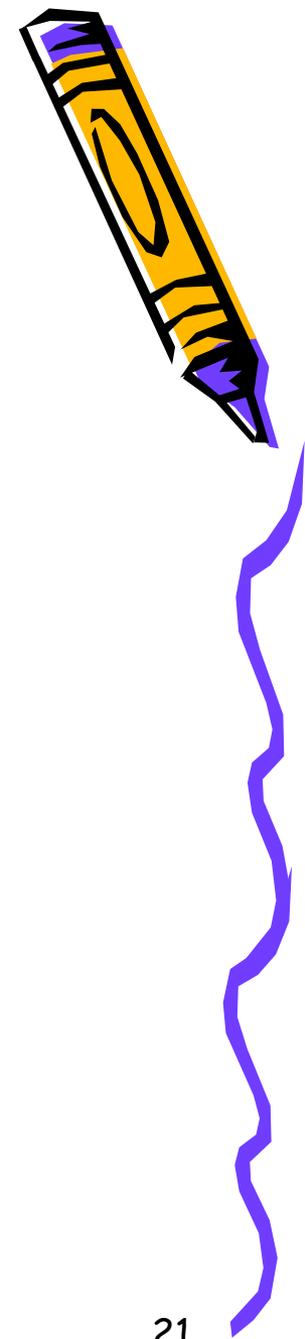
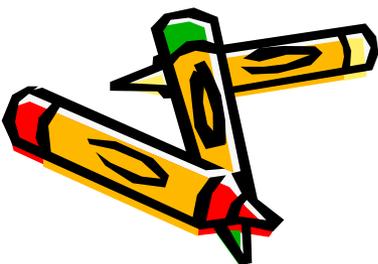
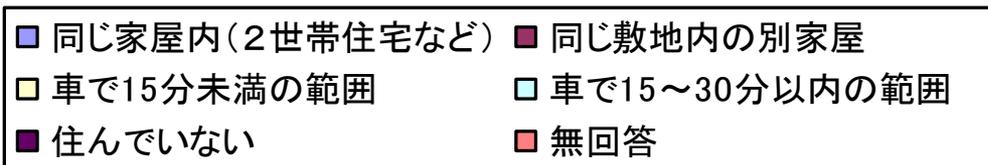
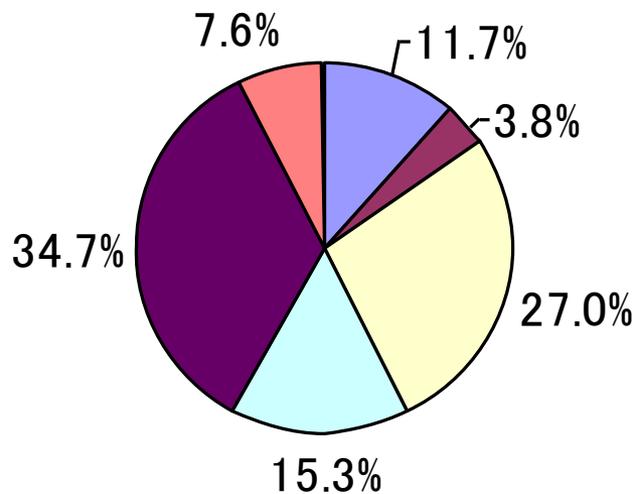
子世代が親世代から独立して住居を構える場合に、
親世代の近傍に居住し、頻繁に行き来を繰り返すことで、
日常的なコミュニケーション、家事や育児・介助の手助けや見守り、
病気や急用・災害等の緊急時の援助、経済的な支援、等を通して、
相互扶助的なつながりを恒常的かつ緊密に維持する家族(間)関係



◇福井県の世帯構造と住居

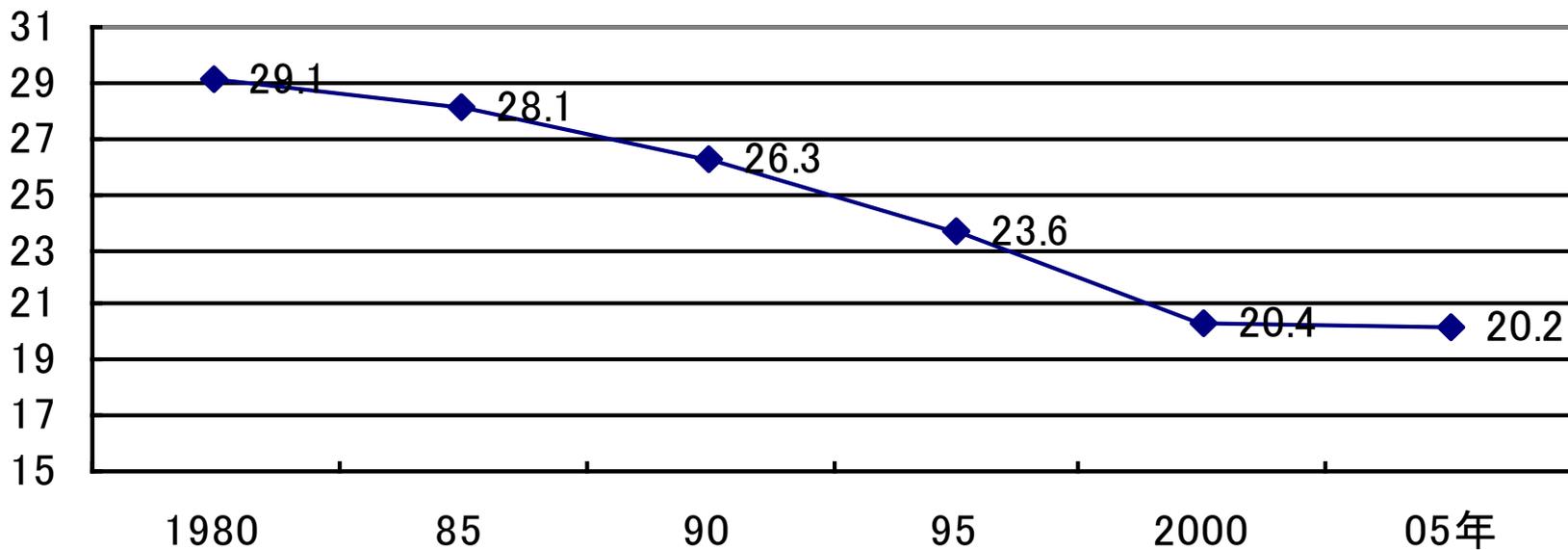
福井型の修正拡大家族

30分程度で行ける範囲に自分や配偶者の親あるいは自分の子供が住んでいますか？

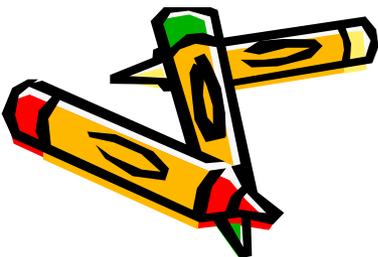


◇福井県の世帯構造と住居

福井県における3世代同居率の推移



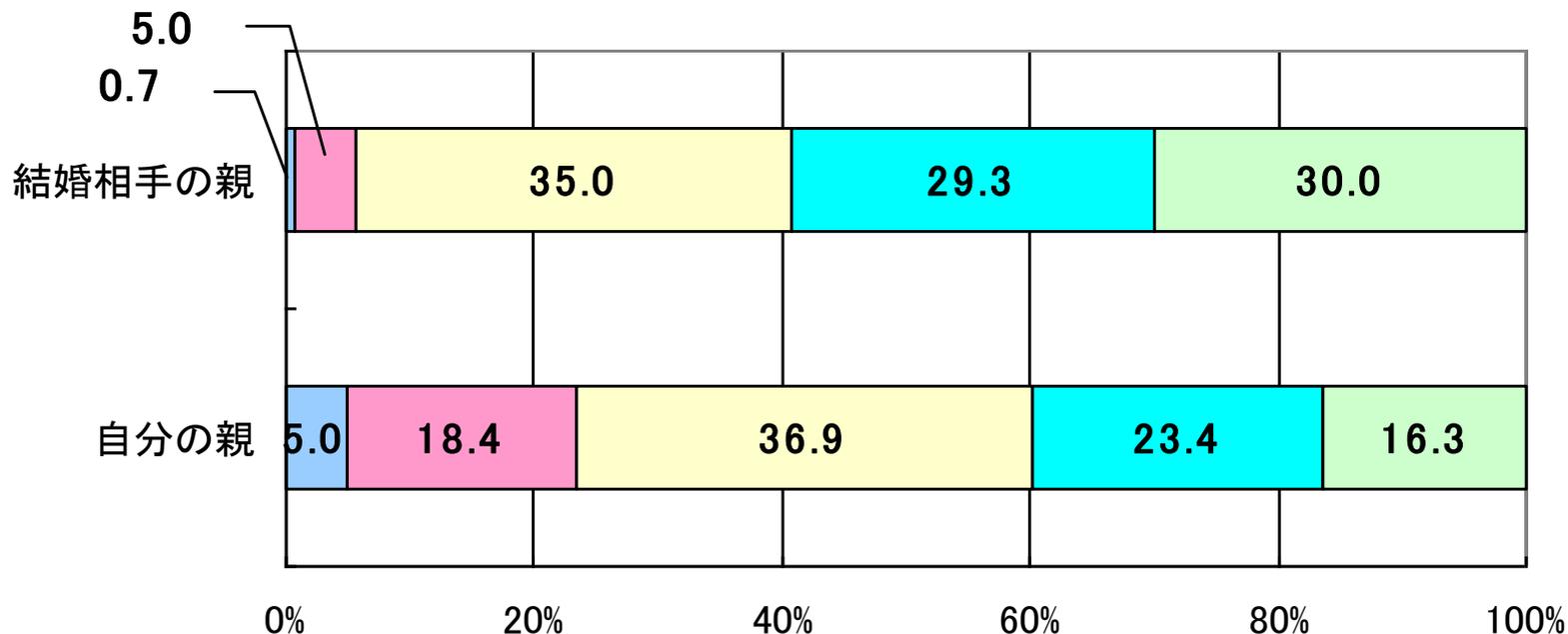
総務省『国勢調査』から作成



◇福井県の世帯構造と住居



福井県立大学生の結婚後の親との同居についての意向

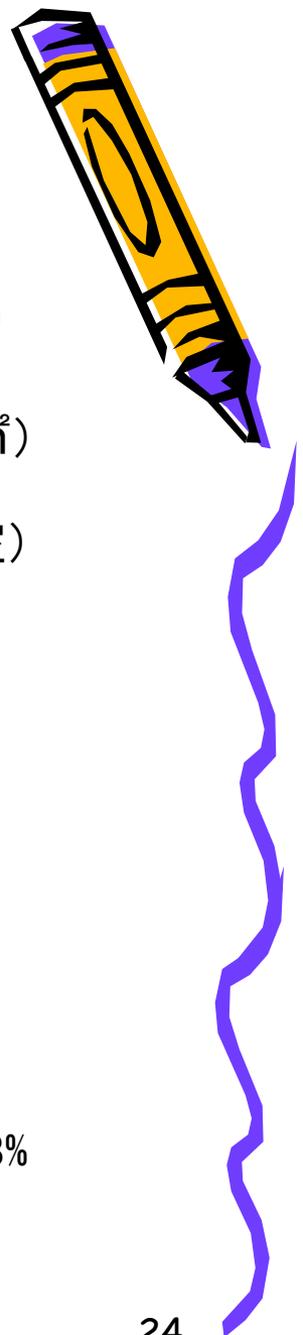


■同居したい ■どちらかといえば同居したい ■どちらともいえない ■どちらかといえば同居したくない ■同居したくない

平成18年度に、塚本が福井県立大学で担当している「社会福祉調査B」の授業の中で実施した県大の在大学生を対象としたアンケート調査(回答者数147名)から作成

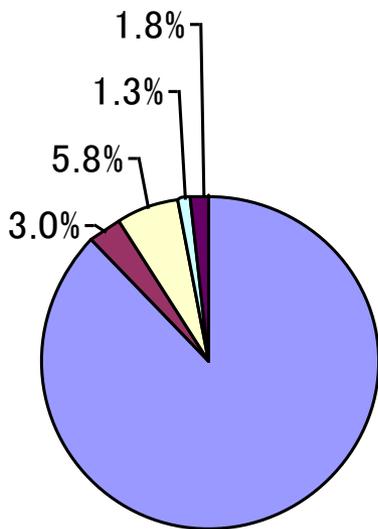


◇福井県の世帯構造と住居

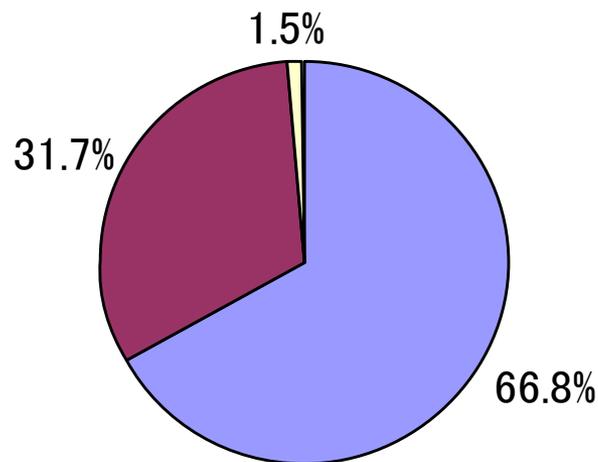


- ・持ち家比率(対居住世帯あり住宅数) 76.1% 第3位 全国(61.2%)
- ・持ち家住宅の延べ面積(1住宅当たり) 173.7m² 第2位 全国(123.9m²)
- ・居住室数(1住宅当たり) 7.27室 第2位 全国(5.92室)

住宅の種類

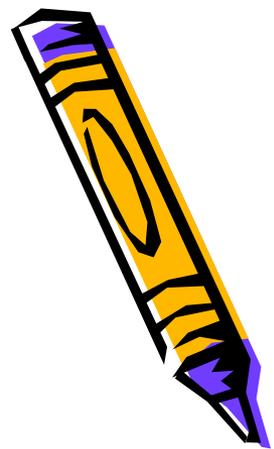


個室の有無



■ 持ち家 ■ 借家(1戸建て) ■ 借家(共同建て)
■ その他 ■ 無回答

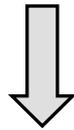
■ ある ■ ない ■ 無回答



◇定住性を生み出す要因(産業構造)

- ・人口1000人あたりの事業所数 56.7 第1位 全国(44.9)
- ・1事業所あたりの平均雇用者数 7.49人 第35位 全国(9.09人)
- ・第2次産業事業所数構成比(対事業所数) 25.43% 第2位 全国(18.61%)
- ・第3次産業事業所数構成比(対事業所数) 74.20% 第46位 全国(81.02%)

総務省『事業所・企業統計調査』平成16年



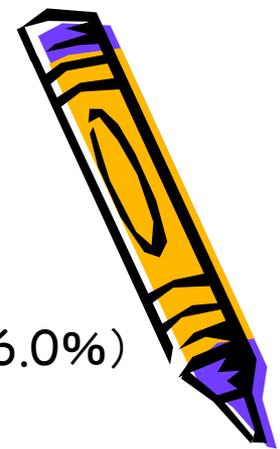
中小の事業所が数多く存在し、
第2次産業の占める比率が高い

雇用保険適用事業所の規模

規模(人)	事業所数	割合
1～4	10,331	59.76%
5～29	5,633	32.59%
30～99	987	5.71%
100～499	305	1.76%
500～999	23	0.13%
1000以上	8	0.05%
計	17,287	100.00%

福井労働局(平成12年度)





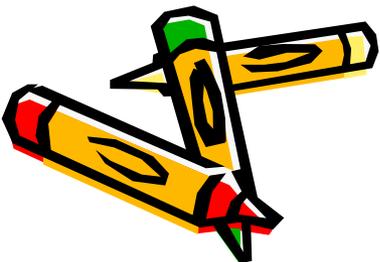
◇定住性を生み出す要因(就労機会)

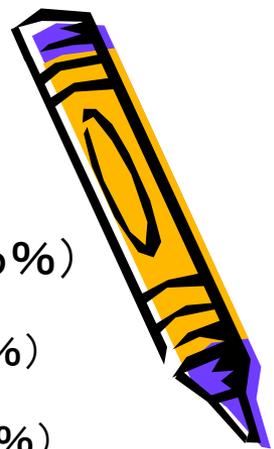
- ・完全失業率(完全失業者数／労働力人口) 4.2% 第47位 全国(6.0%)
- ・有効求人倍率(月間有効求人数／月間有効求職者数) 1.14 第6位 全国(0.87)
- ・第2次産業就業者比率(対就業者) 33.1% 第7位 全国(26.1%)
- ・第3次産業就業者比率(対就業者) 61.5% 第32位 全国(67.2%)

総務省統計局『社会・人口統計体系』平成20年



働く場所が数多く存在し、
第2次産業の占める比率が高い



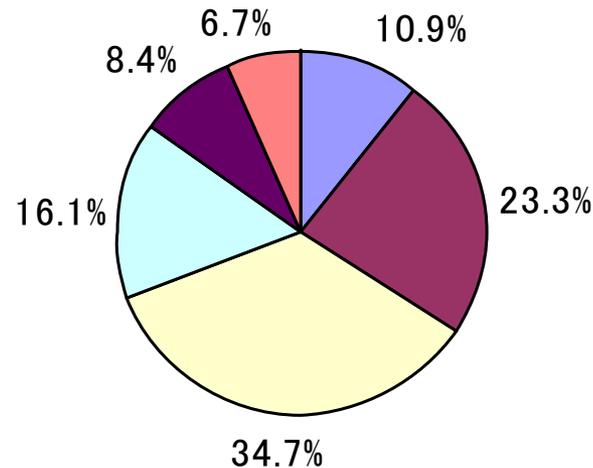


◇共働き県としての福井

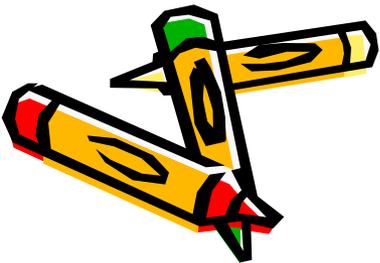
- ・共働き世帯割合(対一般世帯数) 39.6% 第1位 全国(26.6%)
- ・労働力人口比率【男性】(対15歳以上人口) 74.4% 第10位 全国(72.1%)
- ・労働力人口比率【女性】(対15歳以上人口) 53.1% 第1位 全国(47.8%)

総務省統計局『社会・人口統計体系』平成20年

世帯あたりの勤労者数



■ 0人 ■ 1人 □ 2人 □ 3人 ■ 4人以上 ■ 無回答





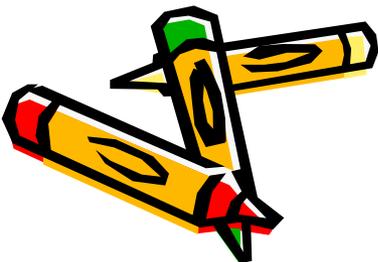
◇共働きの要因(賃金水準)

・福井県の賃金(男性)	309.6千円	全国(336.7千円)
・福井県の賃金(女性)	205.8千円	全国(225.2千円)

厚生労働省『賃金構造基本統計調査』平成19年



働く場所は豊富にあるが、
1人あたりの賃金水準は全国平均を下まわる





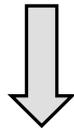
◇産業構造からみた共働き要因

1) 1人あたりの賃金水準の低さ

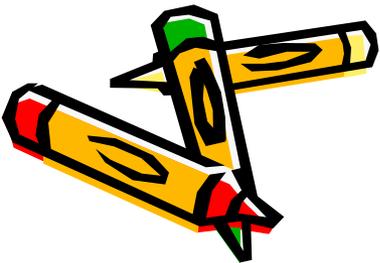
女性を労働市場に向けて押し出す働きをする
(プッシュ要因)

2) 働く場所(労働の機会)の豊富さ

労働市場に向けて押し出された女性が吸収されやすい
(プル要因)



共働き(世帯に複数の稼ぎ手)がトレンド化しやすい

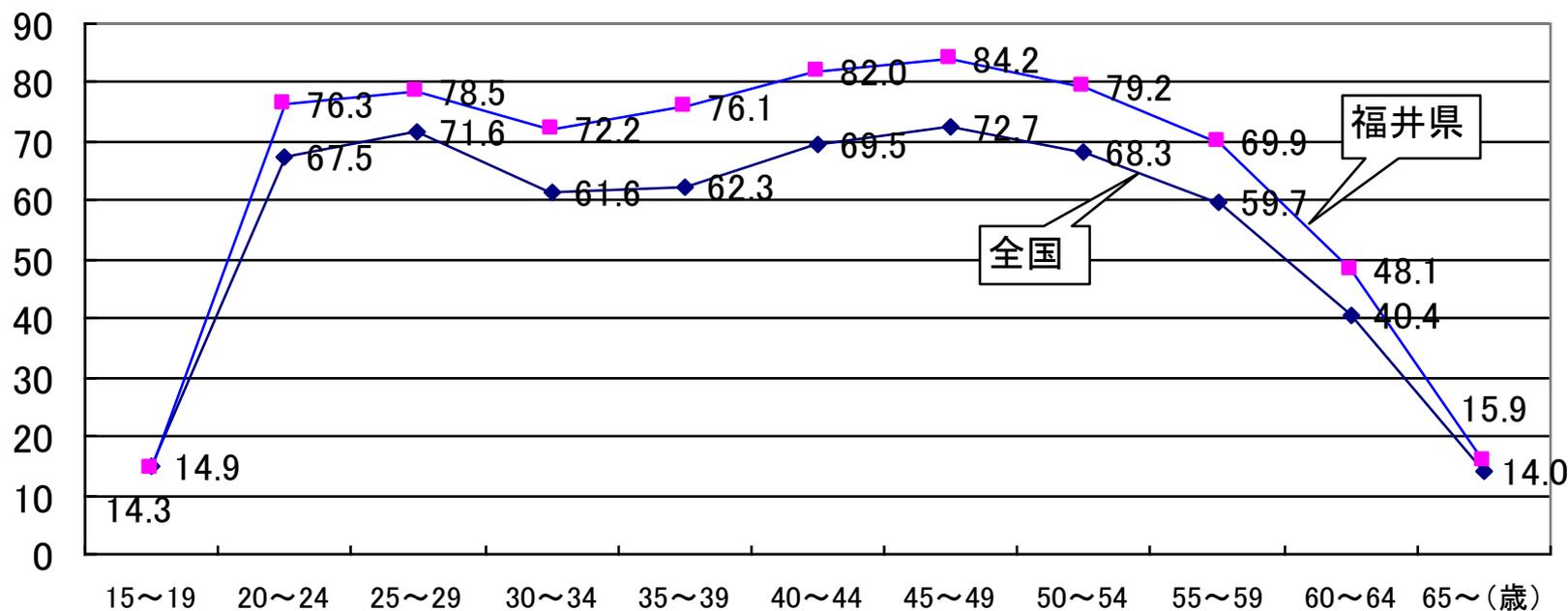




◇共働き県としての福井

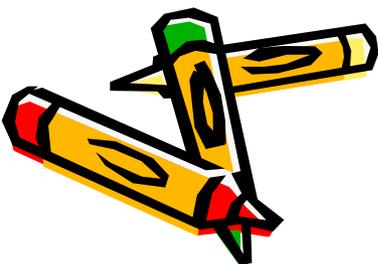
・女性の労働力率

女性の年齢別労働力率



総務省『国勢調査』平成17年より作成

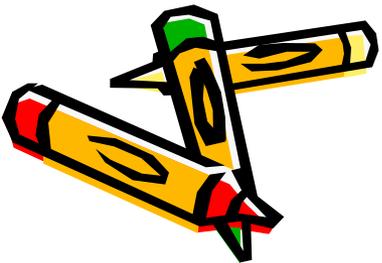
M字型カーブの底が浅く、子育て期の女性の多くが賃労働を継続しているのも特徴

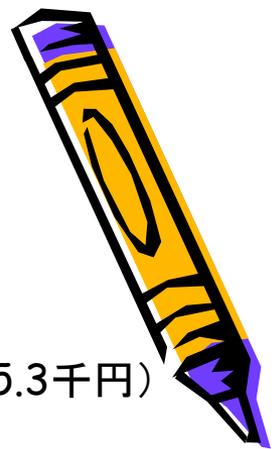




◇兼業農家率の高さ (「内からの混住化社会」としての福井)

- ・兼業農家率(販売農家数に対する比率) 93.5% 第1位
全国平均(70.6%)
農林水産省『農業構造動態調査報告』平成16年
- ・農家率(総世帯数に占める農家の比率) 14.9%
- ・第2種兼業農家率 88.1%
農林水産省『世界農林業センサス』平成12年
- ・農家所得に占める農業所得の比率 6.0%
農林水産省『農業経営動向統計』平成15年





◇共働きの成果（収入と預貯金残高）

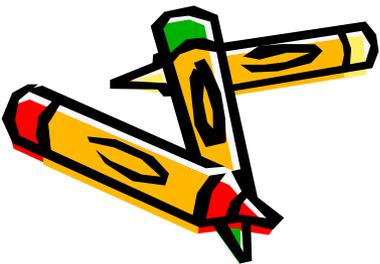
- ・実収入【勤労者世帯】（1世帯あたり1か月間） 623.2千円 第4位 全国（525.3千円）
- ・平均消費性向【勤労者世帯】（消費支出／可処分所得） 68.3% 第39位 全国（72.6%）
- ・貯蓄現残高【全世帯】（1世帯あたり） 19,111千円 第3位 全国（15,557千円）

※県庁所在地のデータ

総務省統計局『社会・人口統計体系』平成20年



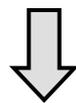
1人あたりの賃金水準は高くないが、
世帯あたりの働き手の数が多いので、
世帯あたりの収入や預貯金額は多い



◇ボランティア活動の活発さ

・ボランティア活動の年間行動者率(15歳以上) 34.1% 第2位 (全国26.0%)

総務省『社会生活基本調査報告』平成18年



◇ボランティア活動の活発さをもたらす要因

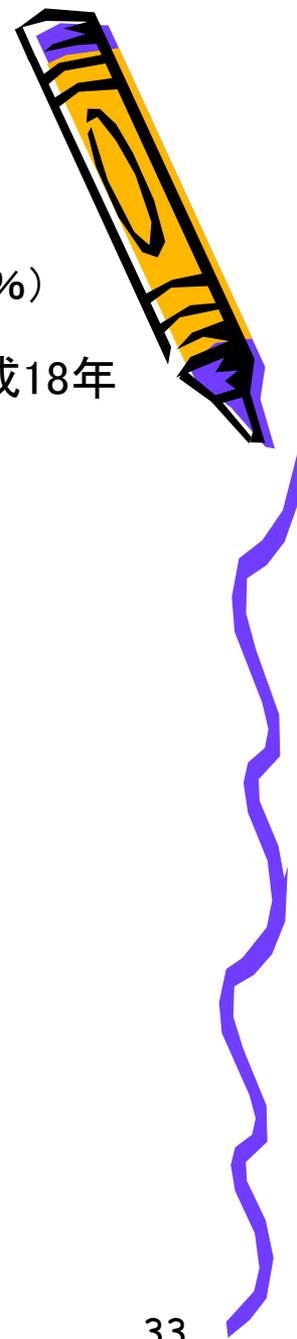
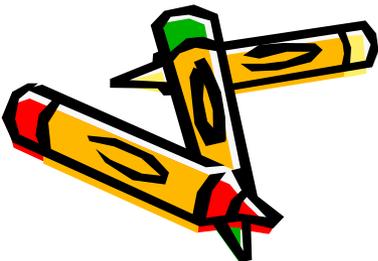
・定住性の高さによる地域コミュニティの結びつきの強さ

地域の間人関係が対面的で緊密(匿名性が低い)

自治会・町内会の組織率が高く、活動が活発

青年団、婦人会、壮年会といった伝統的な年齢階梯集団の組織率の高さ

地域の寺院や神社を中心とした伝統的な行事が活発



◇福井県の未婚率と合計特殊出生率

・未婚者割合(35～39歳・男性) 26.2% 第45位 全国(30.0%)

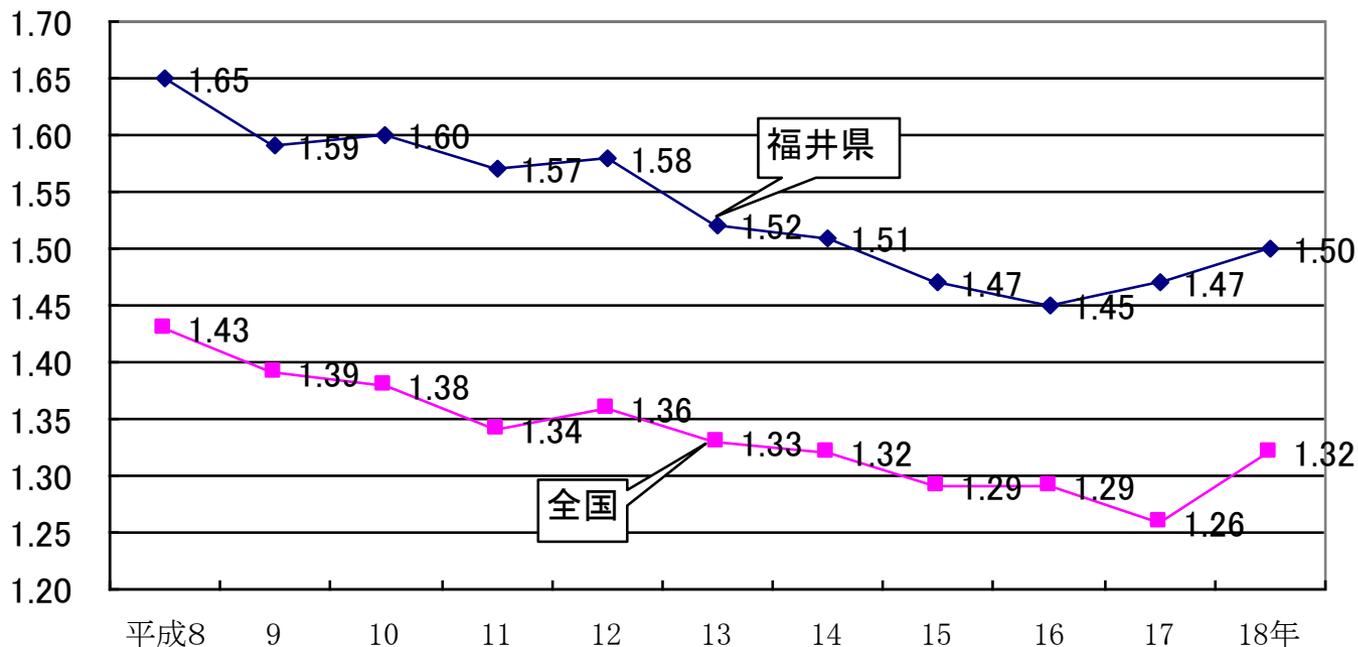
・未婚割合(35～39歳・女性) 12.3% 第47位 全国(18.4%)

総務省『国勢調査報告』平成17年

・合計特殊出生率 1.54 第6位 全国(1.37)

総務省統計局『社会・人口統計体系』平成20年

合計特殊出生率の推移



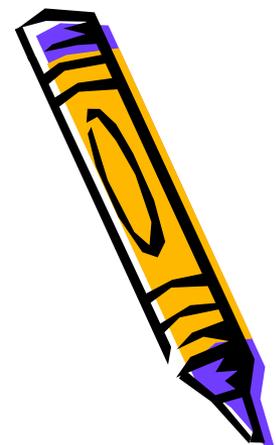
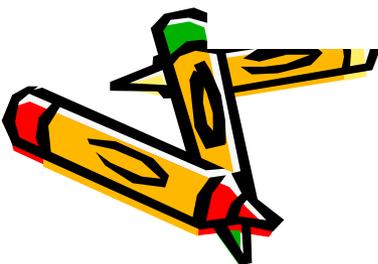
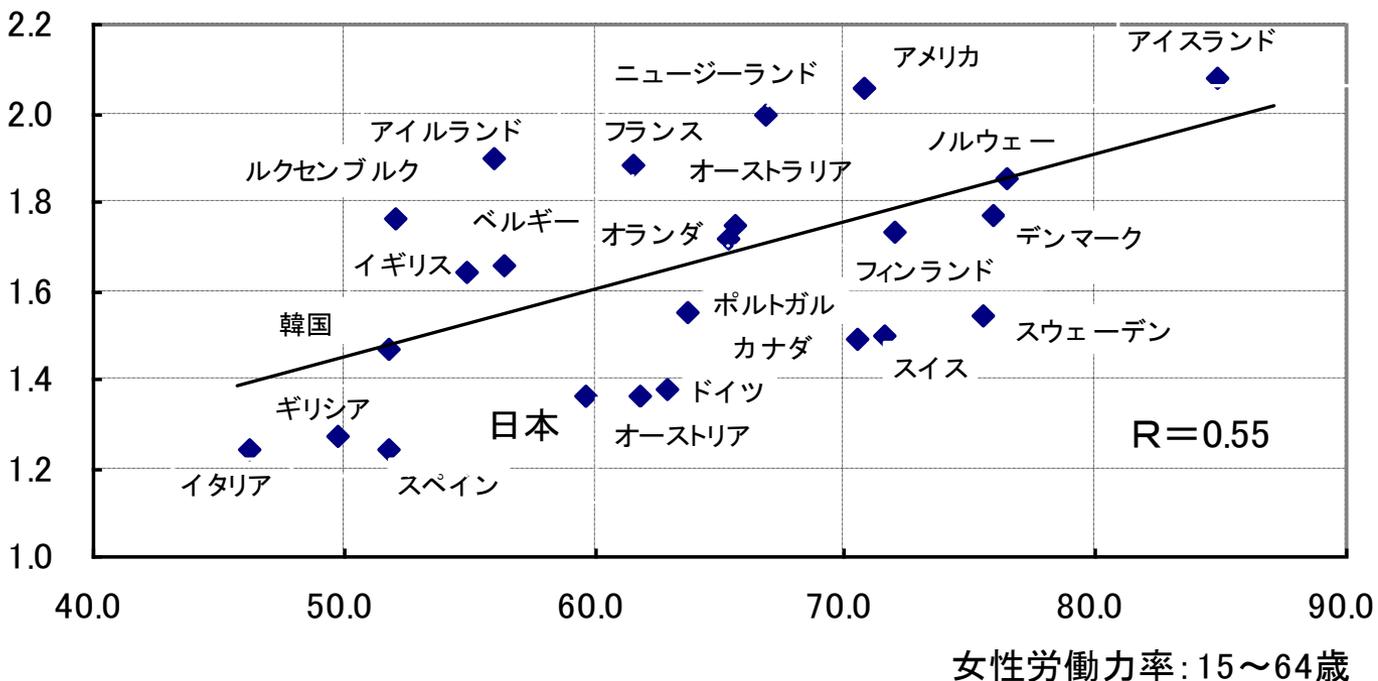
厚生労働省統計情報部『人口動態統計』
 総務省統計局『国勢調査報告』及び同『人口推計年報』から作成

◇福井県の未婚率と合計特殊出生率

女性の年齢別労働力率と合計特殊出生率の関係

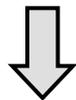
OECD加盟24カ国における女性労働力率と合計特殊出生率(2000年)

合計特殊出生率



◇福井県の未婚率と合計特殊出生率

福井県における合計特殊出生率の高さは、
仕事(賃労働)と育児(子育て)の両立によって達成されている



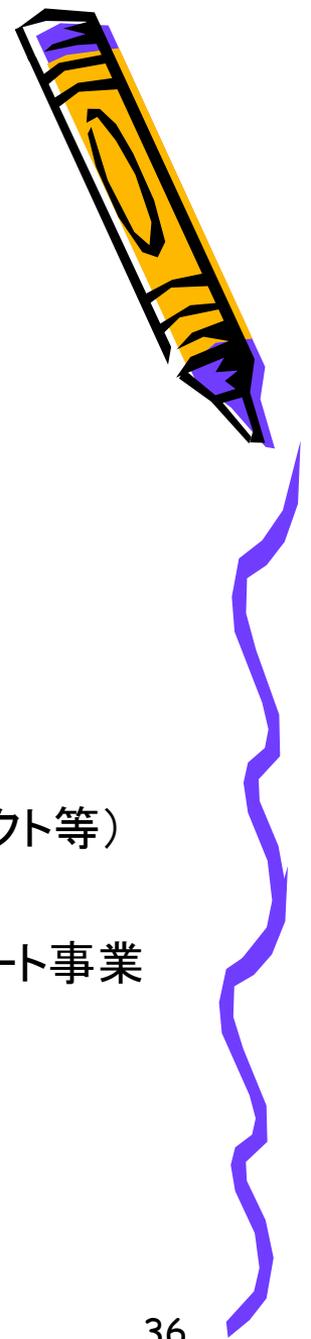
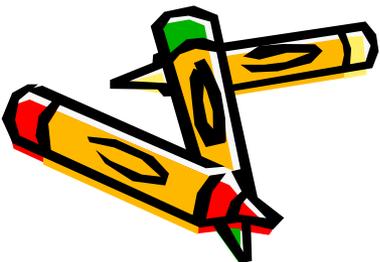
両立を可能にしている条件

◇社会的な支援(育児サポート)

- ・公的な支援: 経済的な支援(ふくい3人っ子応援プロジェクト等)
保育サービスの充実(病児デイケア等)
- ・地域社会(社会活動)による支援: すみずみ子育てサポート事業
子育てマイスター制度

◇家族参加による子育て

- ・3世代同居や福井型の修正拡大家族による
親世代(特に祖母)による育児サポート/家事支援

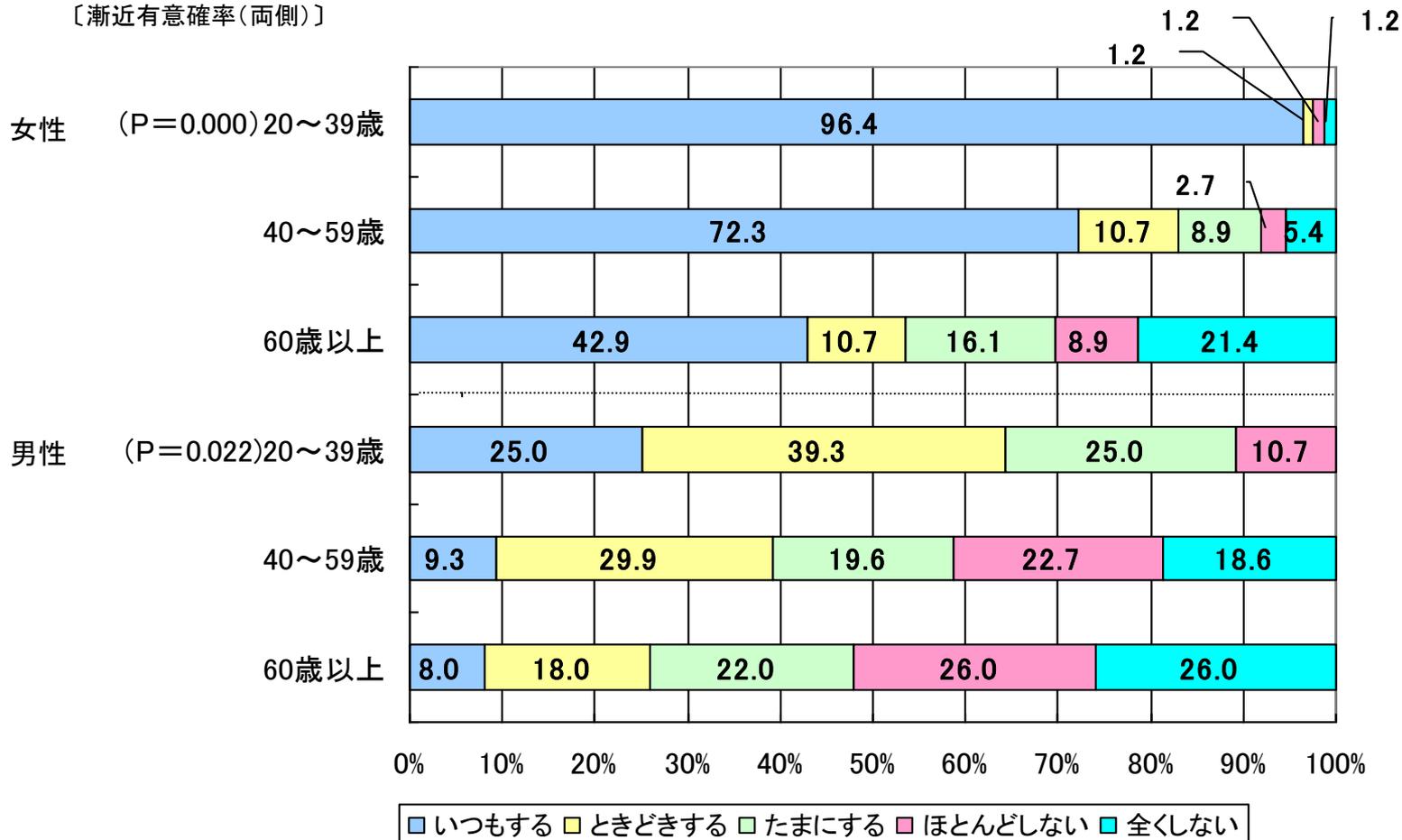


◇福井県の未婚率と合計特殊出生率

福井県における育児分業

乳幼児の世話(男女・年代別)[非該当を除く]

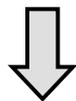
[漸近有意確率(両側)]



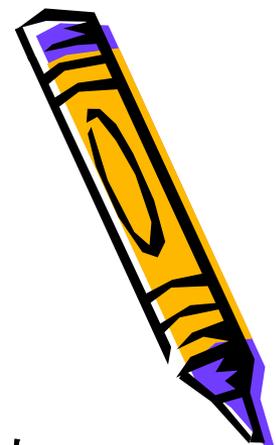
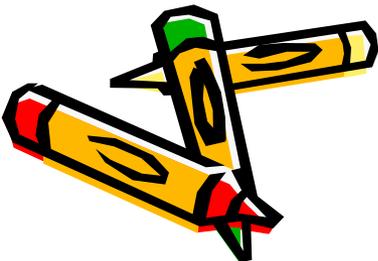
『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

◇福井県の未婚率と合計特殊出生率

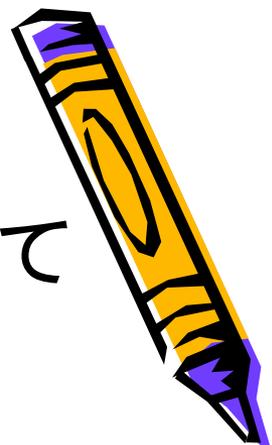
育児に関する家族間の分担、分業は、両性間で平等になされているわけではなく、父親は他の家事に比べて積極的に関与するものの、依然として母親にかかる負担の方が遥かに大きい



共働き県福井で、母親が仕事と育児の両立をはかるうえで、大きなサポートになっているのは父親よりも祖母の存在であり、両性間の水平的な分担・分業よりも、女性による世代間の垂直的な分担・分業によって支えられている



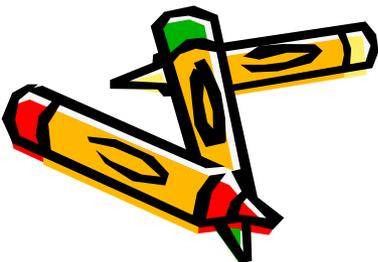
2. 福井県民のライフスタイルの変化について



性別役割分業における保守性と変化

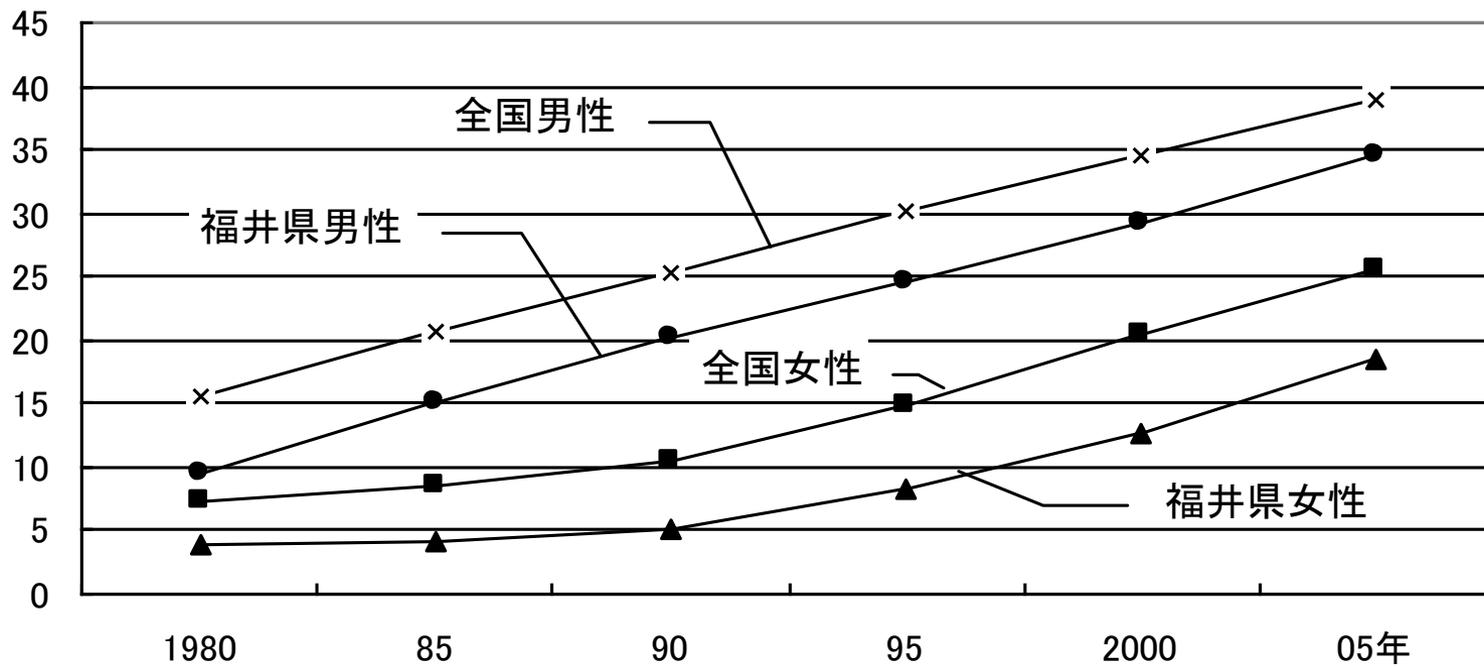
福井県のライフスタイルは、女性による賃労働と家事、育児、介護等の多重負担によって支えられてきた部分が多い。

晩婚化、非婚化、少子化といった課題の克服には、ワーク・ライフ・バランスの主体的な選択を可能にするための条件整備、女性の意志決定過程への参画の推進といった取り組みを、より一層充実させる必要があると思われる。

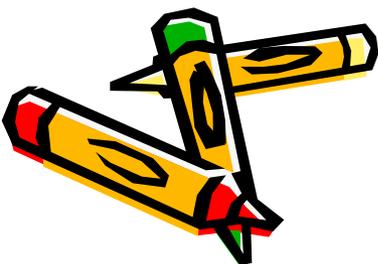
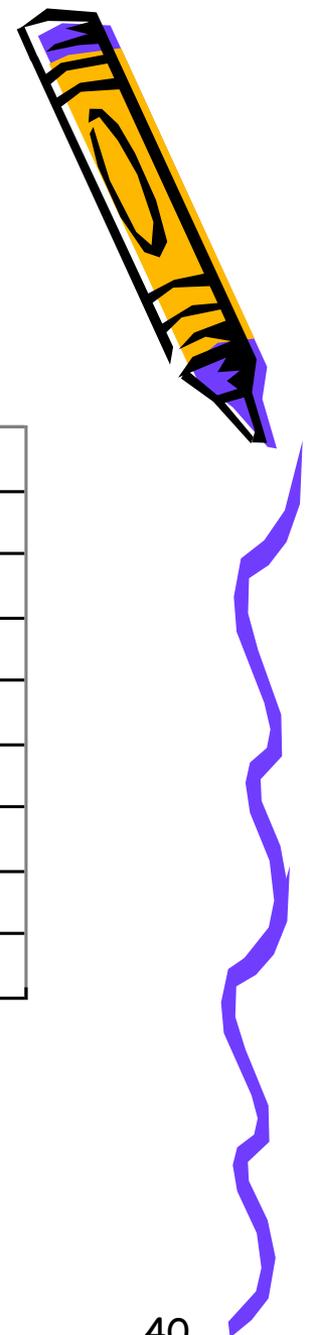


◇晩婚化・非婚化の動向

30代の未婚率の推移

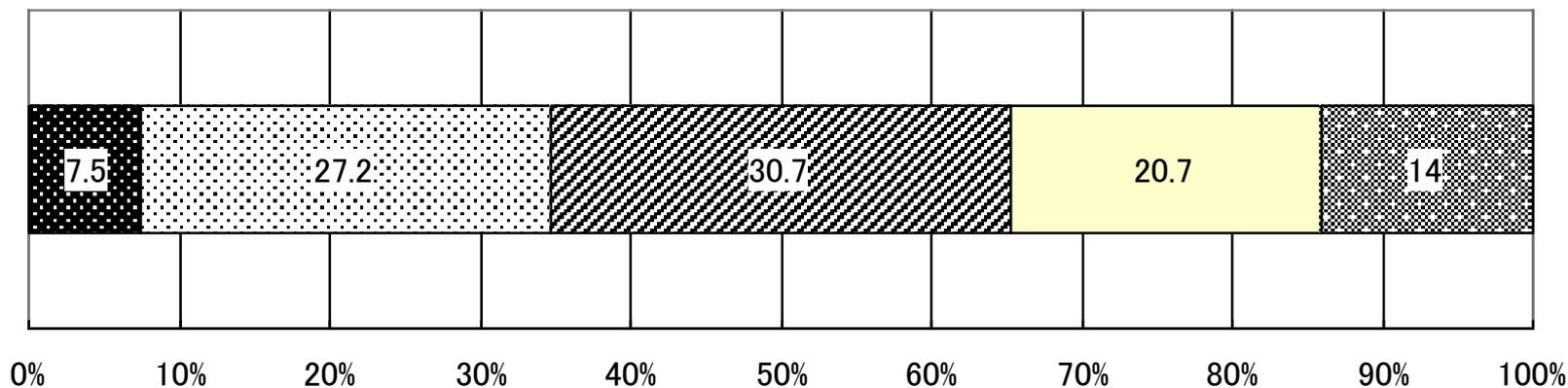


総務省『国勢調査』から作成



◇性別役割分業への賛否

「男は仕事、女は家庭(家事・育児)」という考え方について
(単純集計)

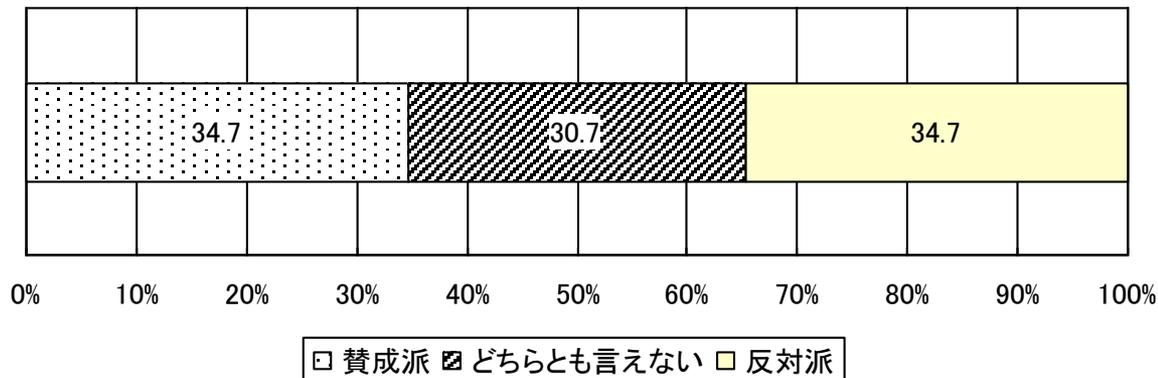


■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 ▨ どちらとも言えない □ どちらかといえば反対 ▩ 反対

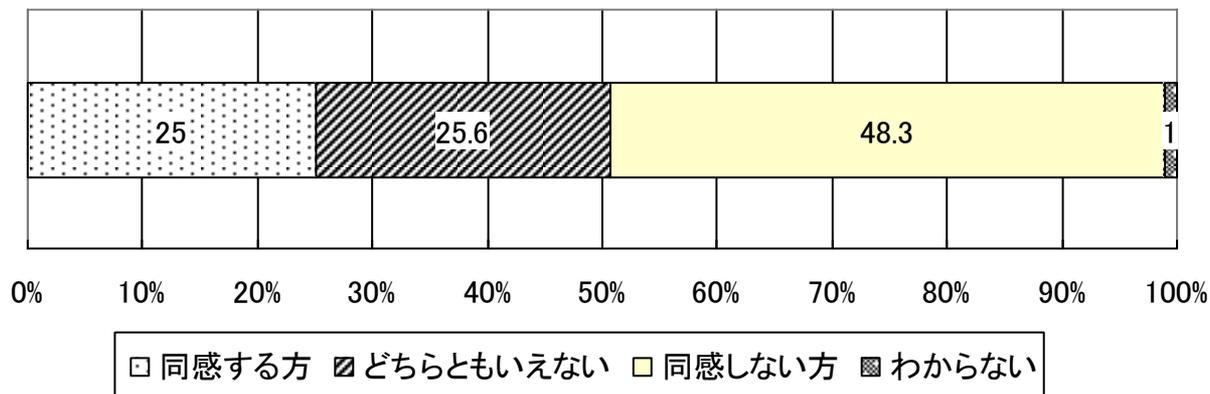
『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

◇性別役割分業への賛否

「男は仕事、女は家庭(家事・育児)」という考え方について(単純集計)
福井県 平成15年



「男は仕事、女は家庭」という考え方について(単純集計・全国)



資料出所: 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成12年)

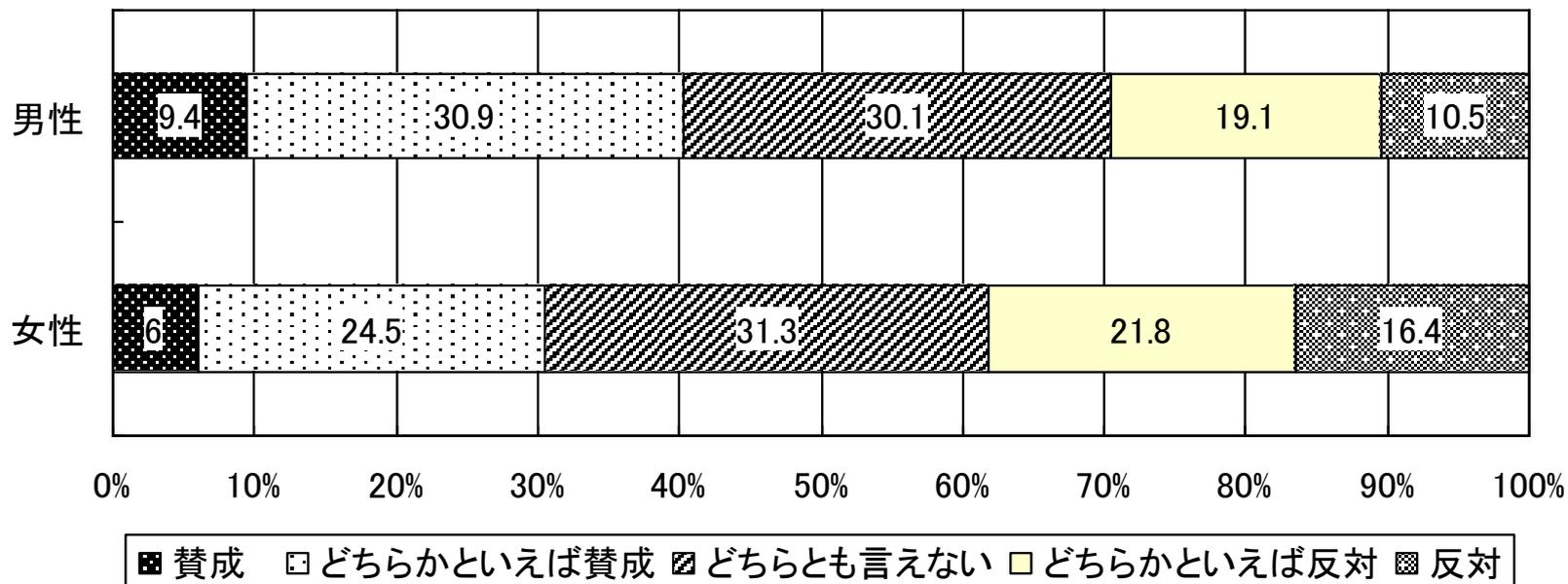
◇性別役割分業への賛否



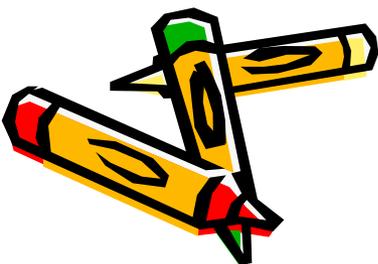
「男は仕事、女は家庭(家事・育児)」という考え方について(男女別)

漸近有意確立(両側)

P=0.011

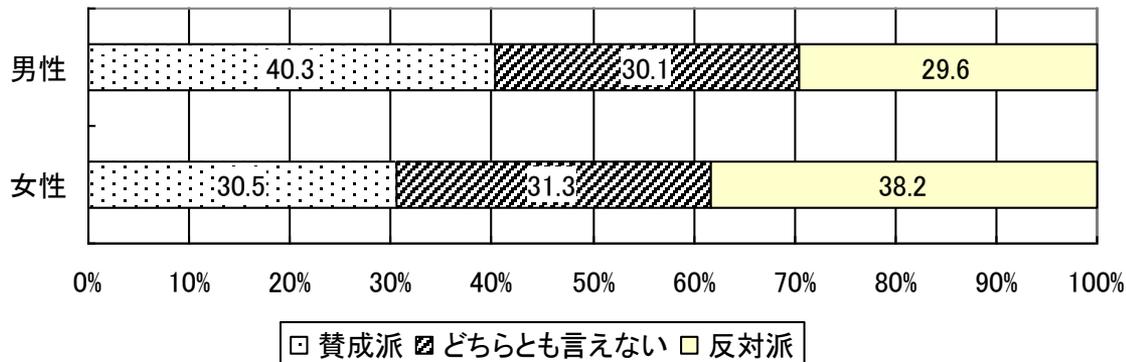


『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

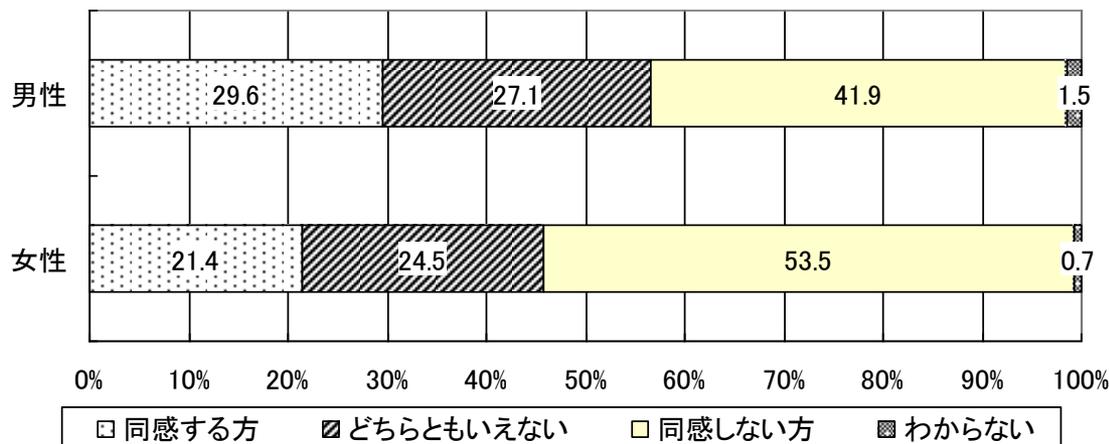


◇性別役割分業への賛否

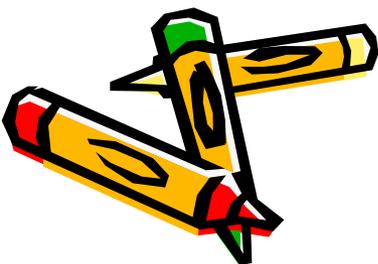
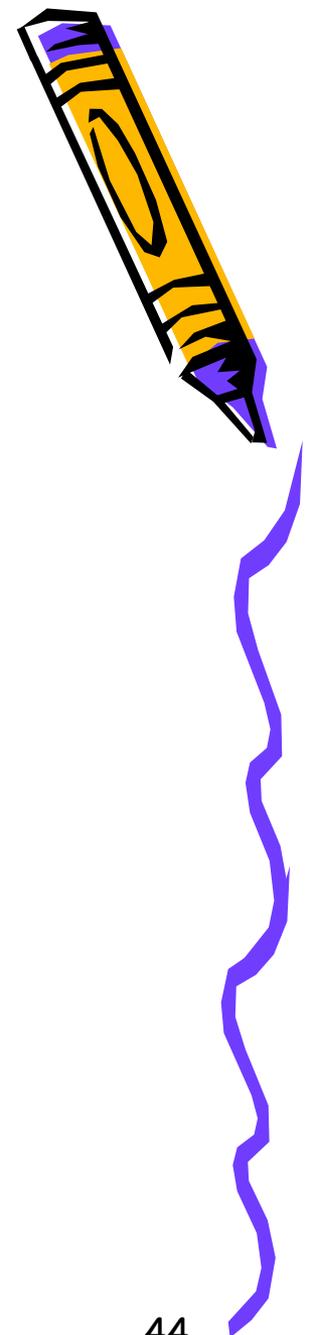
「男は仕事、女は家庭」という考え方について(男女別)
福井県 平成15年



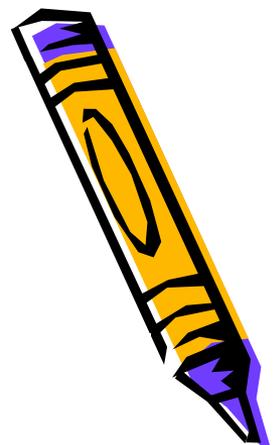
「男は仕事、女は家庭」という考え方について(男女別・全国)



資料出所: 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成12年)

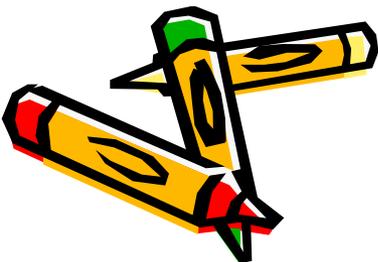
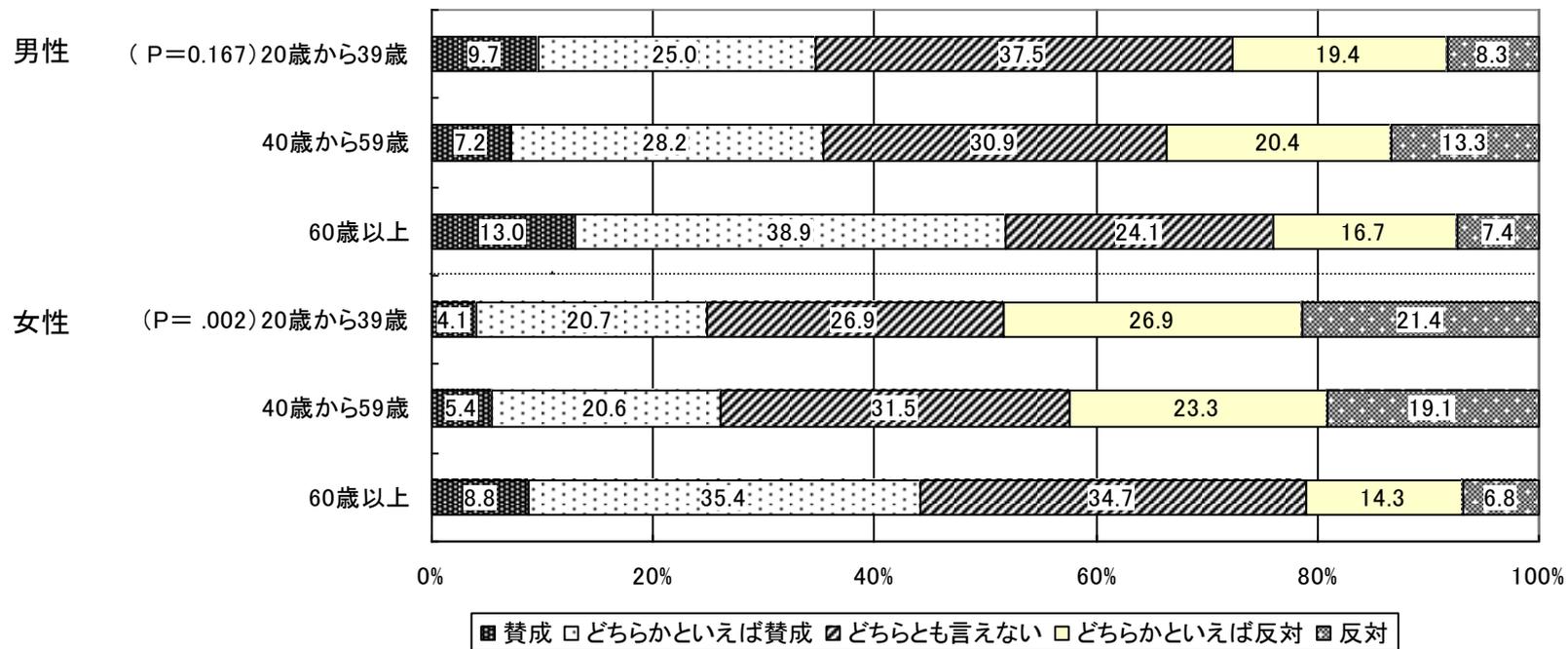


7. 福井県における男性の家事参加



「男は仕事、女は家庭(家事・育児)」という考え方について(男女・年代別)

[漸近有意確立(両側)]

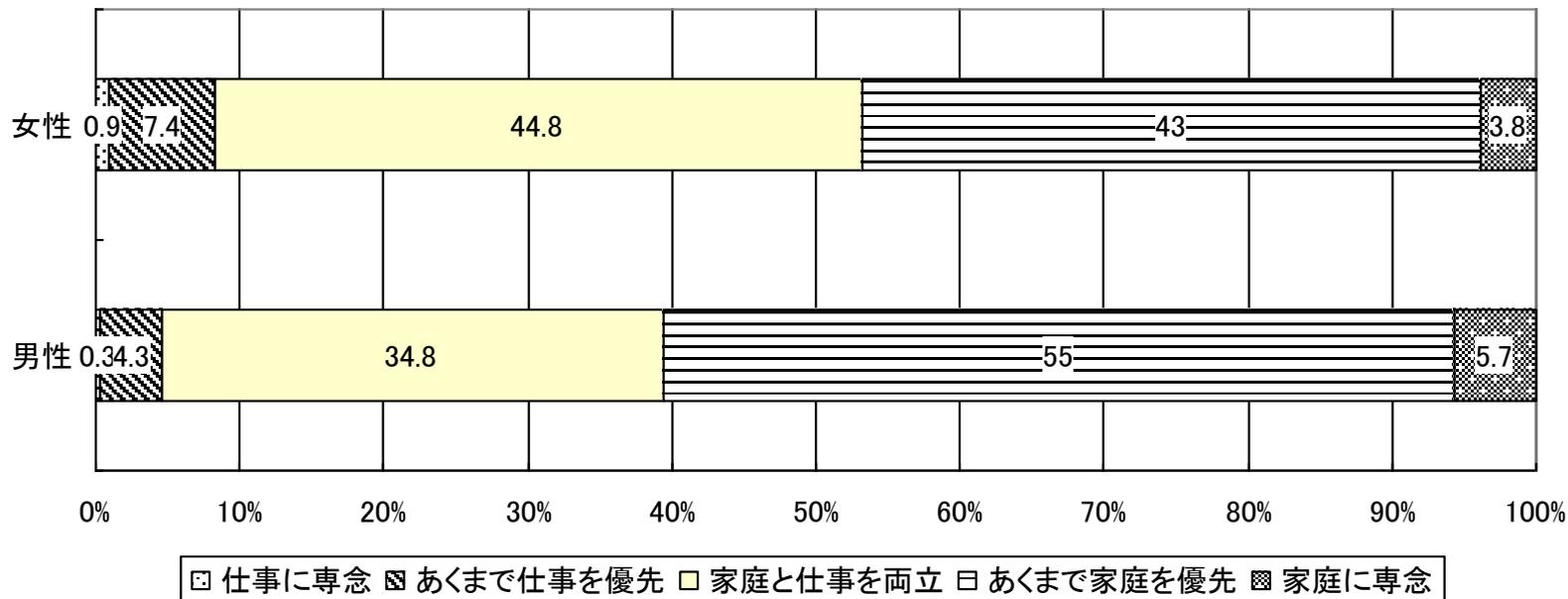


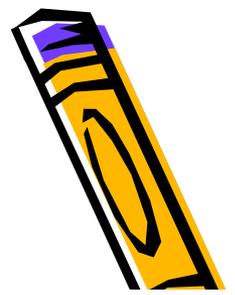
◇ワーク・ライフ・バランスに関する意向



望ましい女性の生き方(男女別)

漸近有意確率(両側)
P=0.001

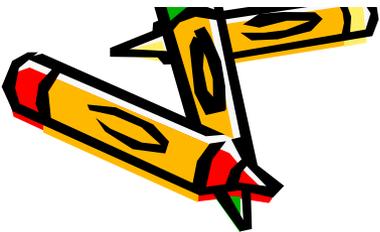
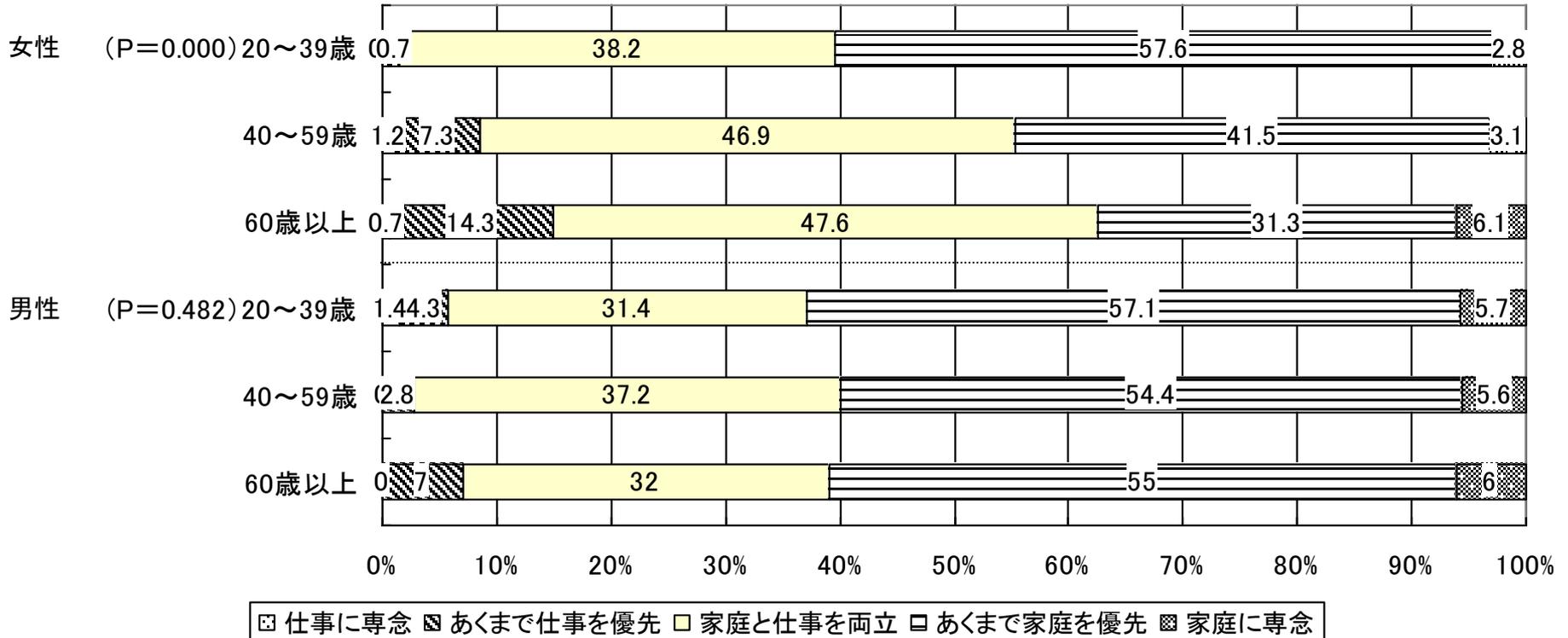




◇ワーク・ライフ・バランスに関する意向

望ましい女性の生き方(男女・年代別)

[漸近有意確率(両側)]

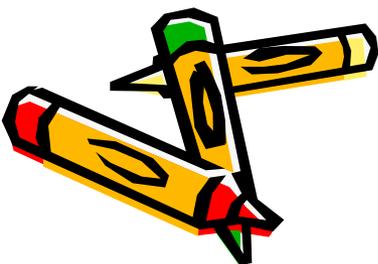
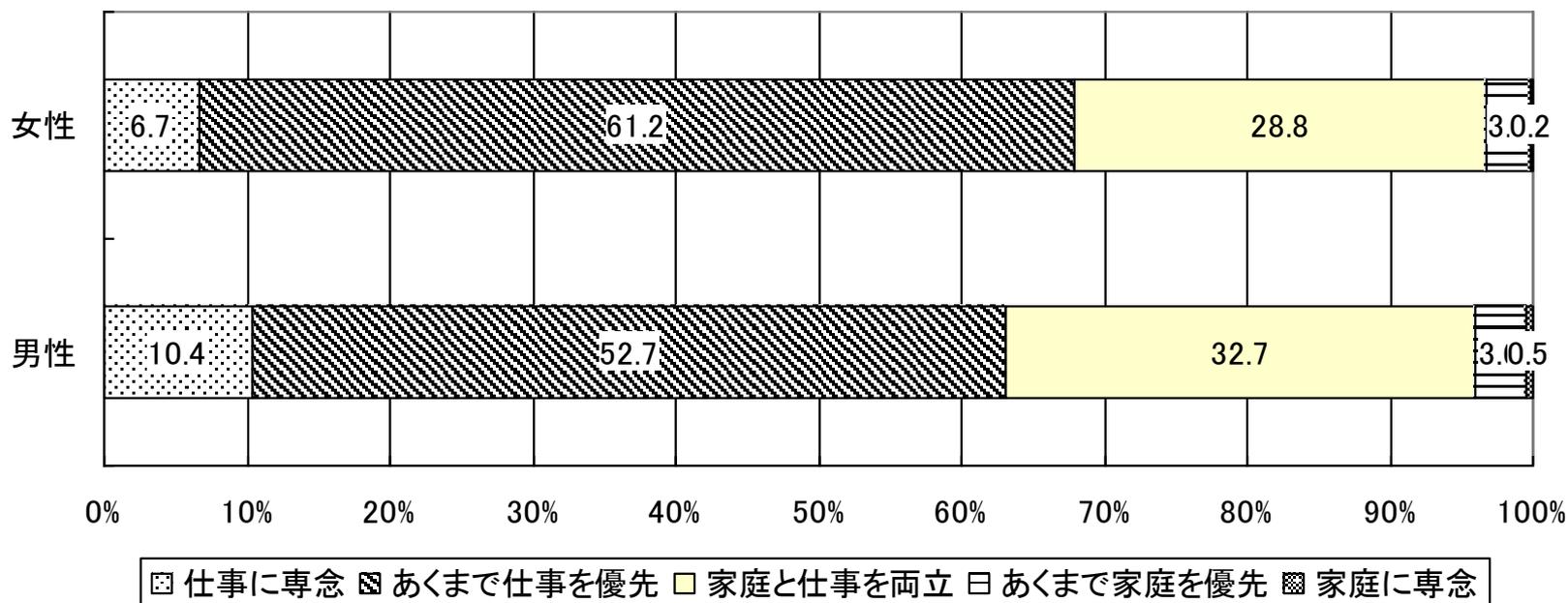


◇ワーク・ライフ・バランスに関する意向

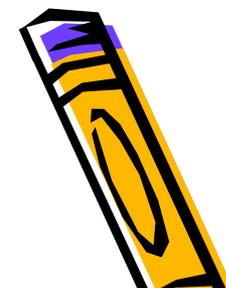


望ましい男性の生き方(男女別)

漸近有意確率(両側)
P=0.081

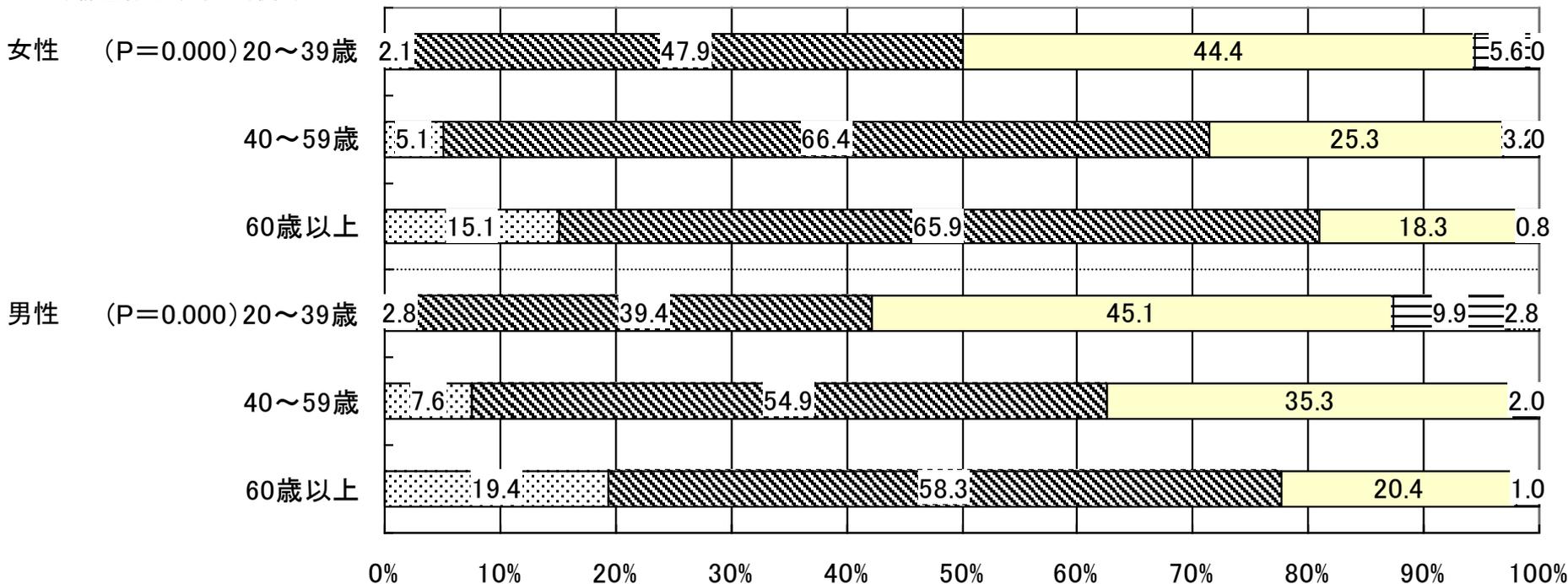


◇ワーク・ライフ・バランスに関する意向



望ましい男性の生き方(男女・年代別)

[漸近有意確率(両側)]



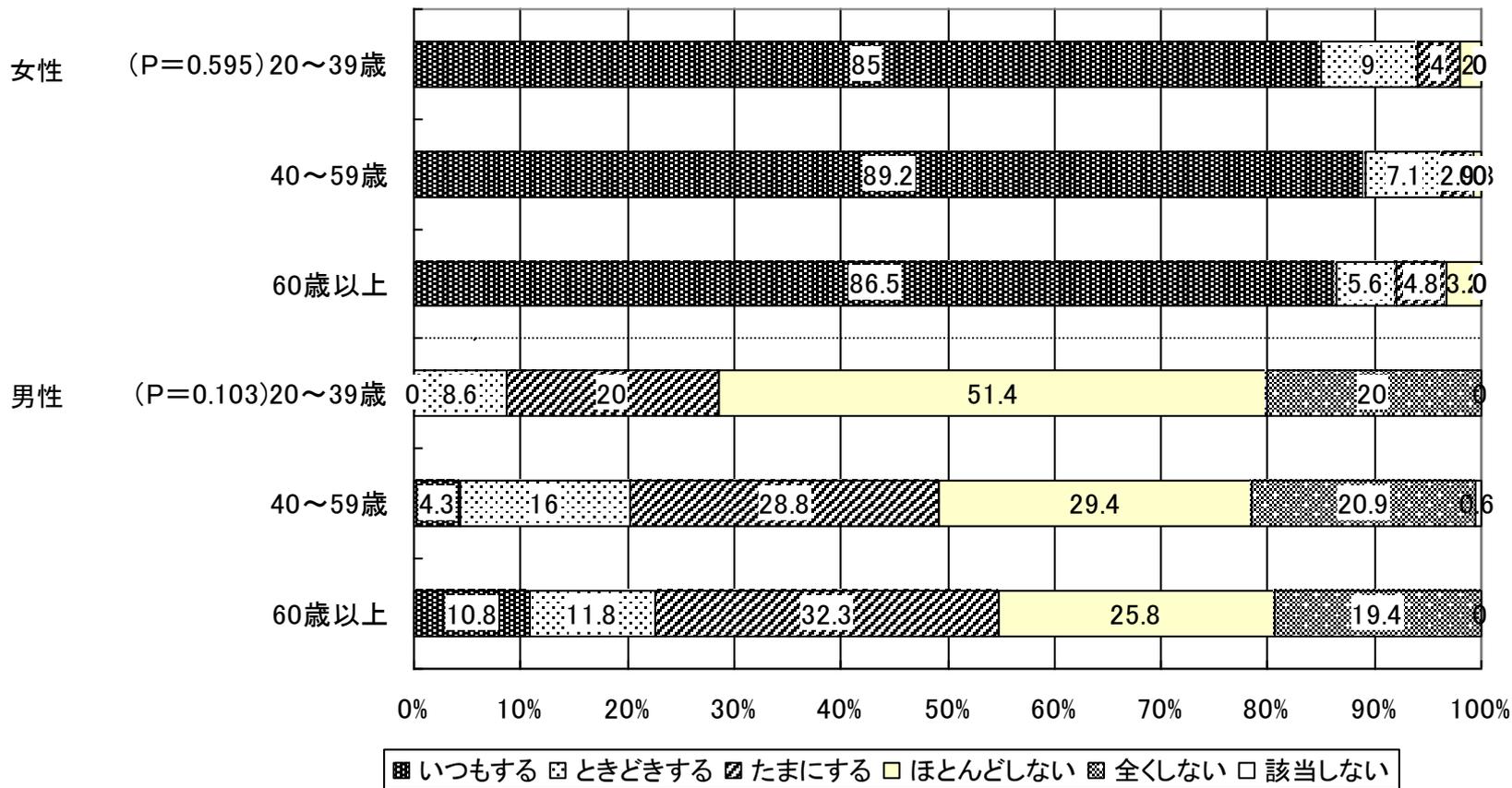
□ 仕事に専念 ■ あくまで仕事を優先 □ 家庭と仕事を両立 □ あくまで家庭を優先 ■ 家庭に専念



◇福井県における男女の家事実施

食事のしたく(男女・年代別)[単身者除く]

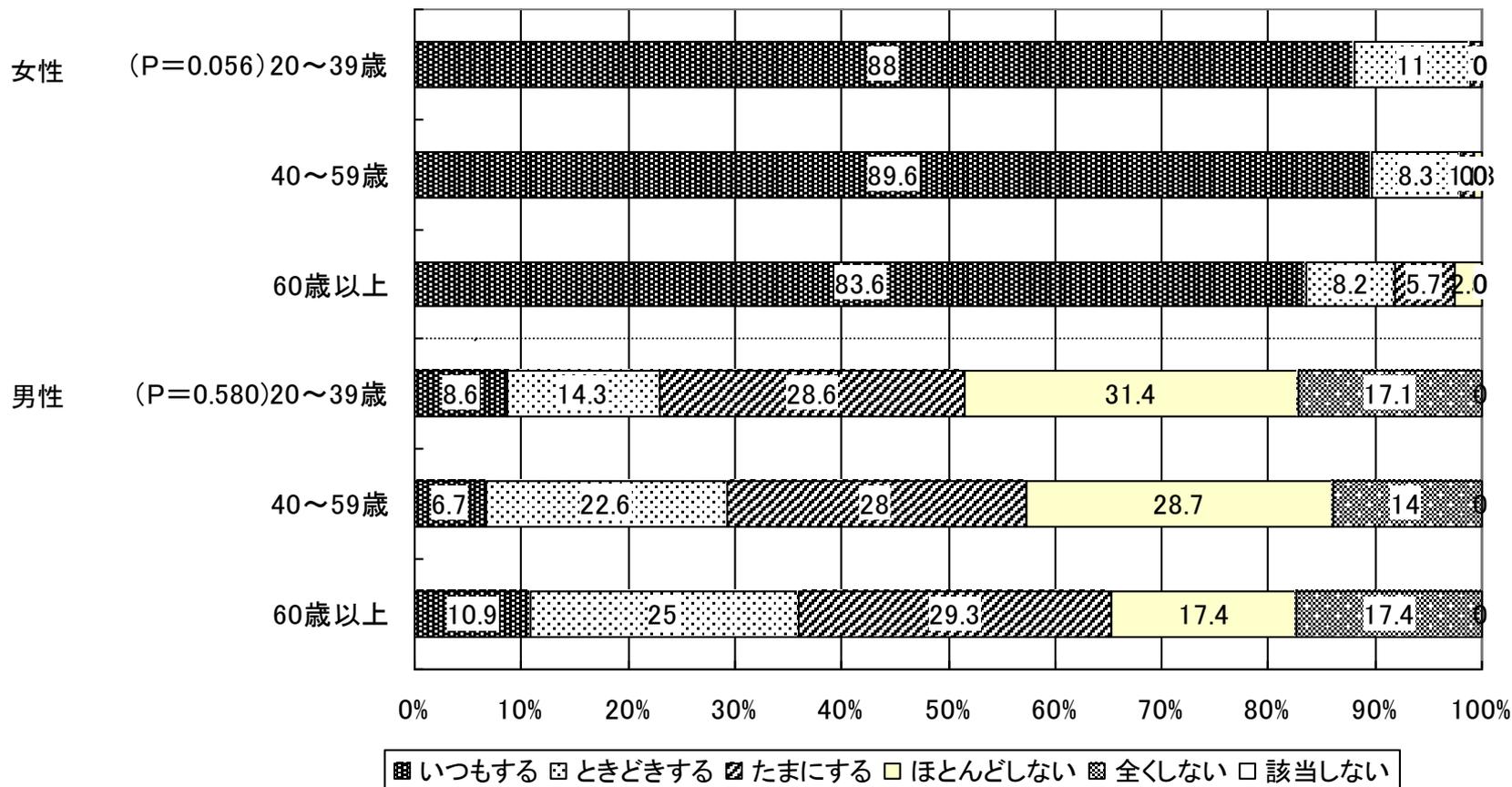
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

食事のあとかたづけ(男女・年代別)[単身者除く]

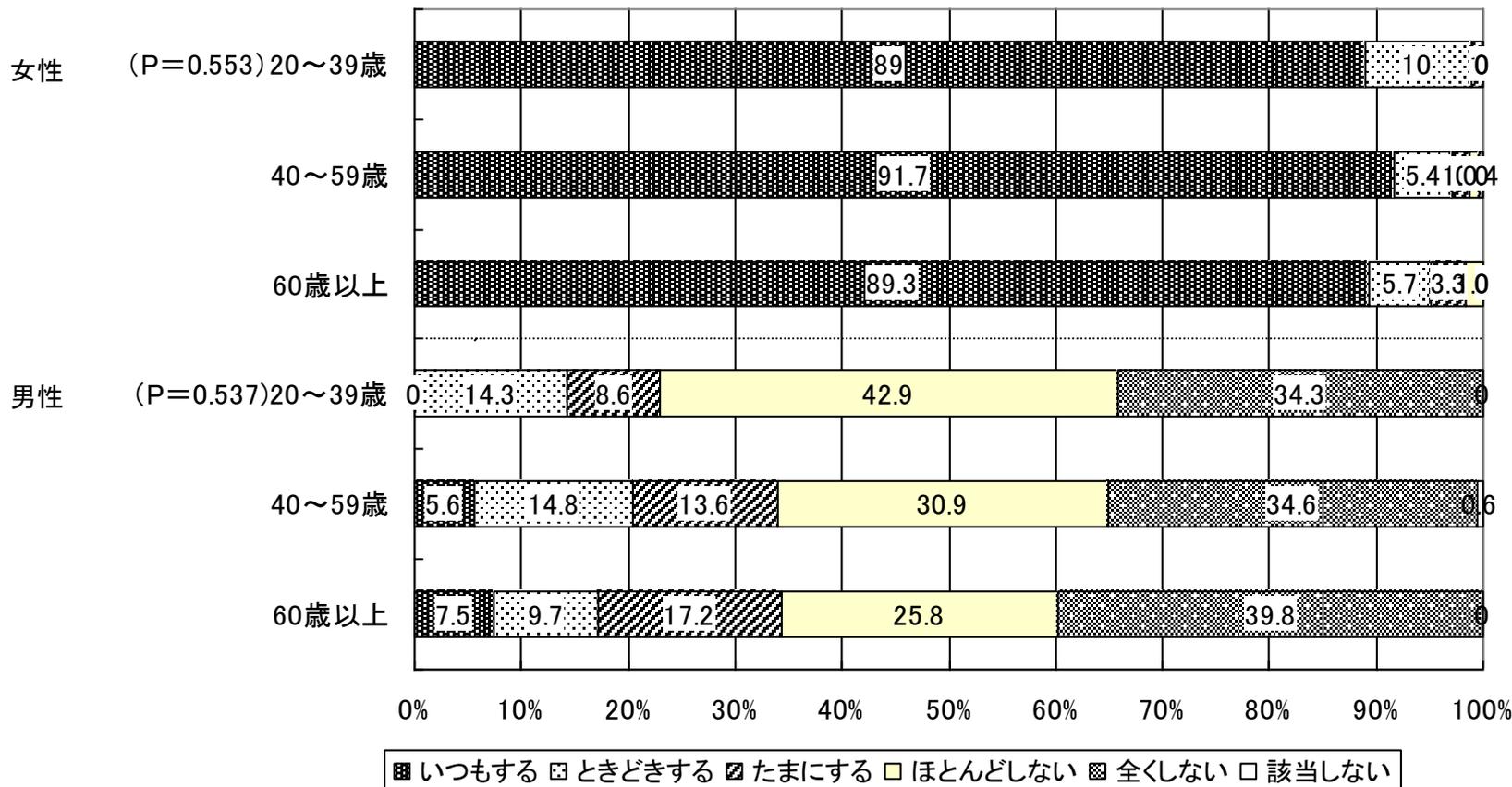
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

洗濯(男女・年代別)[単身者除く]

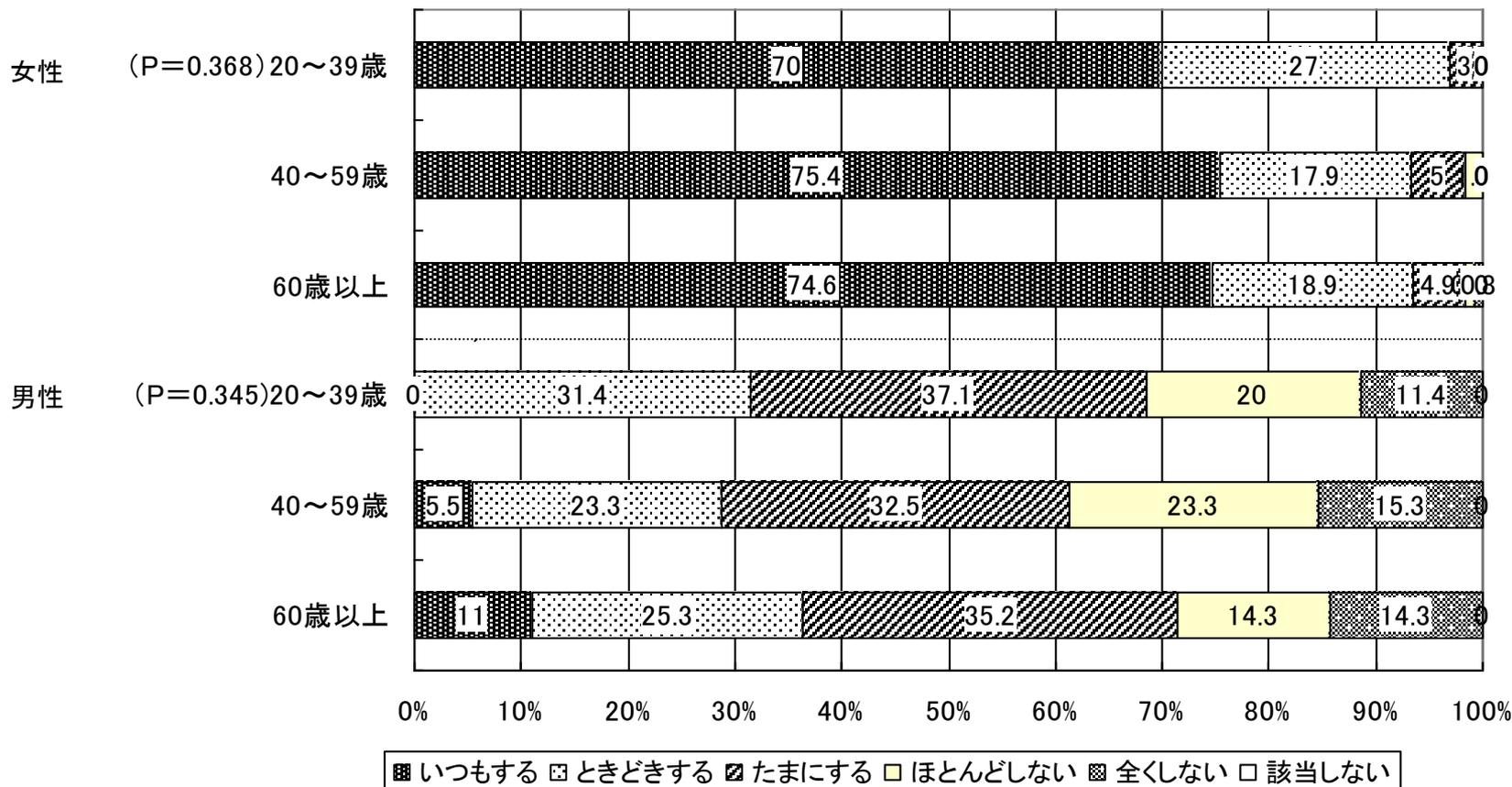
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

掃除(男女・年代別)[単身者除く]

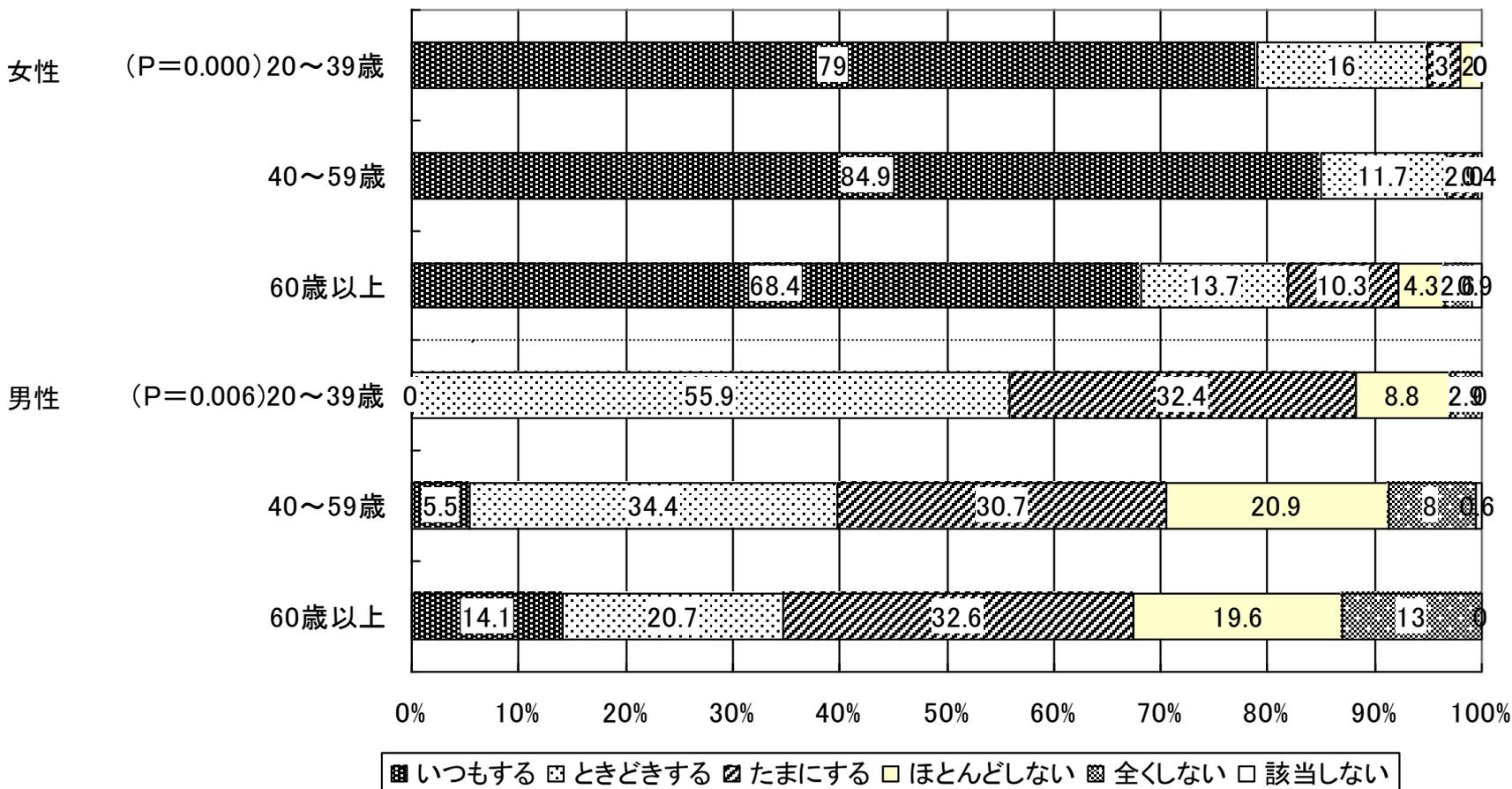
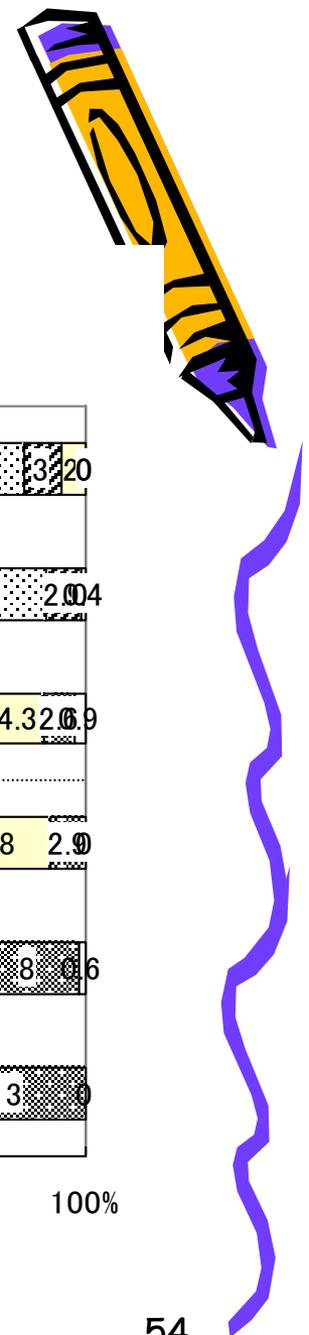
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

食料品等の日常の買物(男女・年代別)[単身者除く]

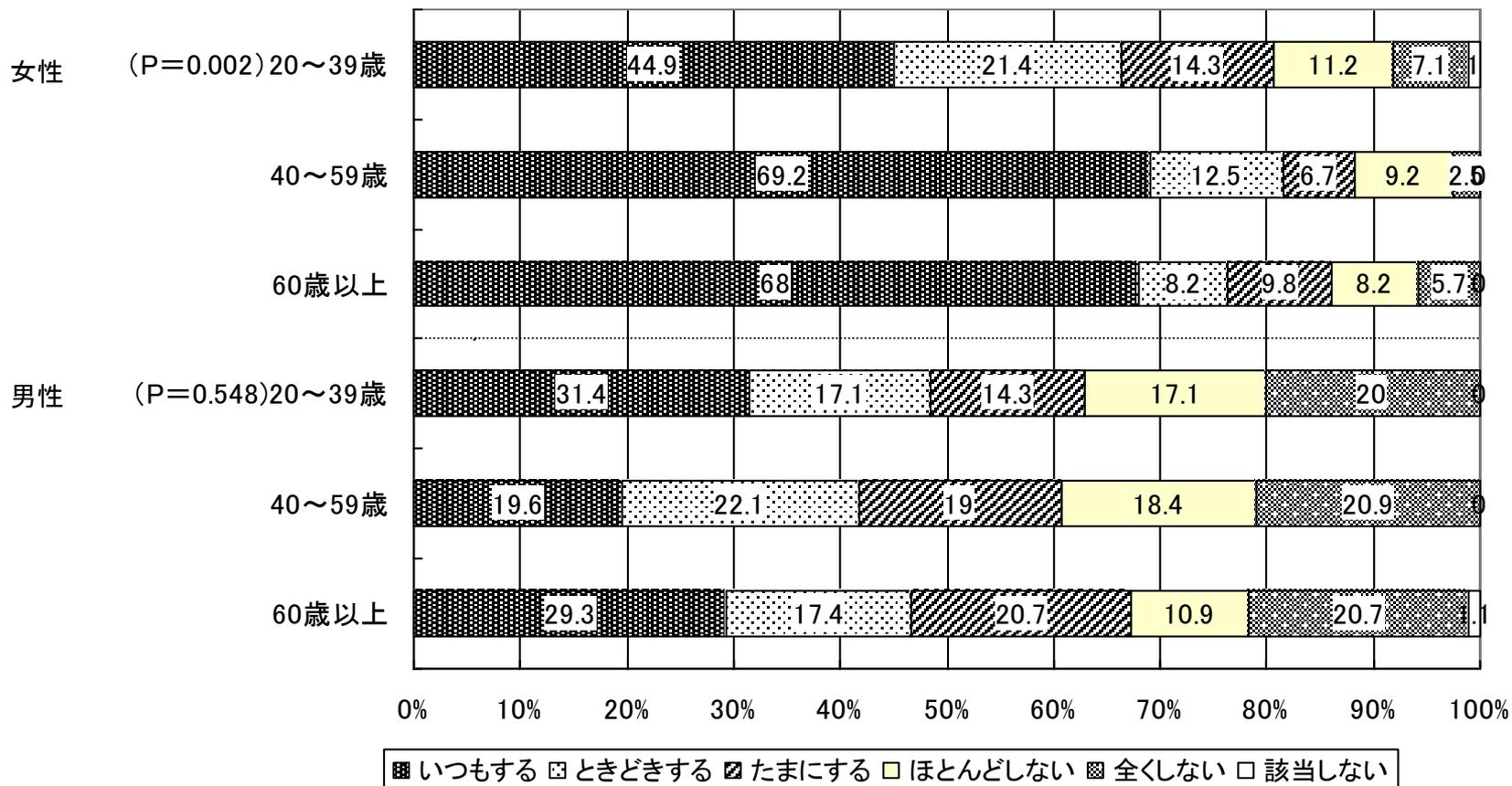
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

ごみ出し(男女・年代別)[単身者除く]

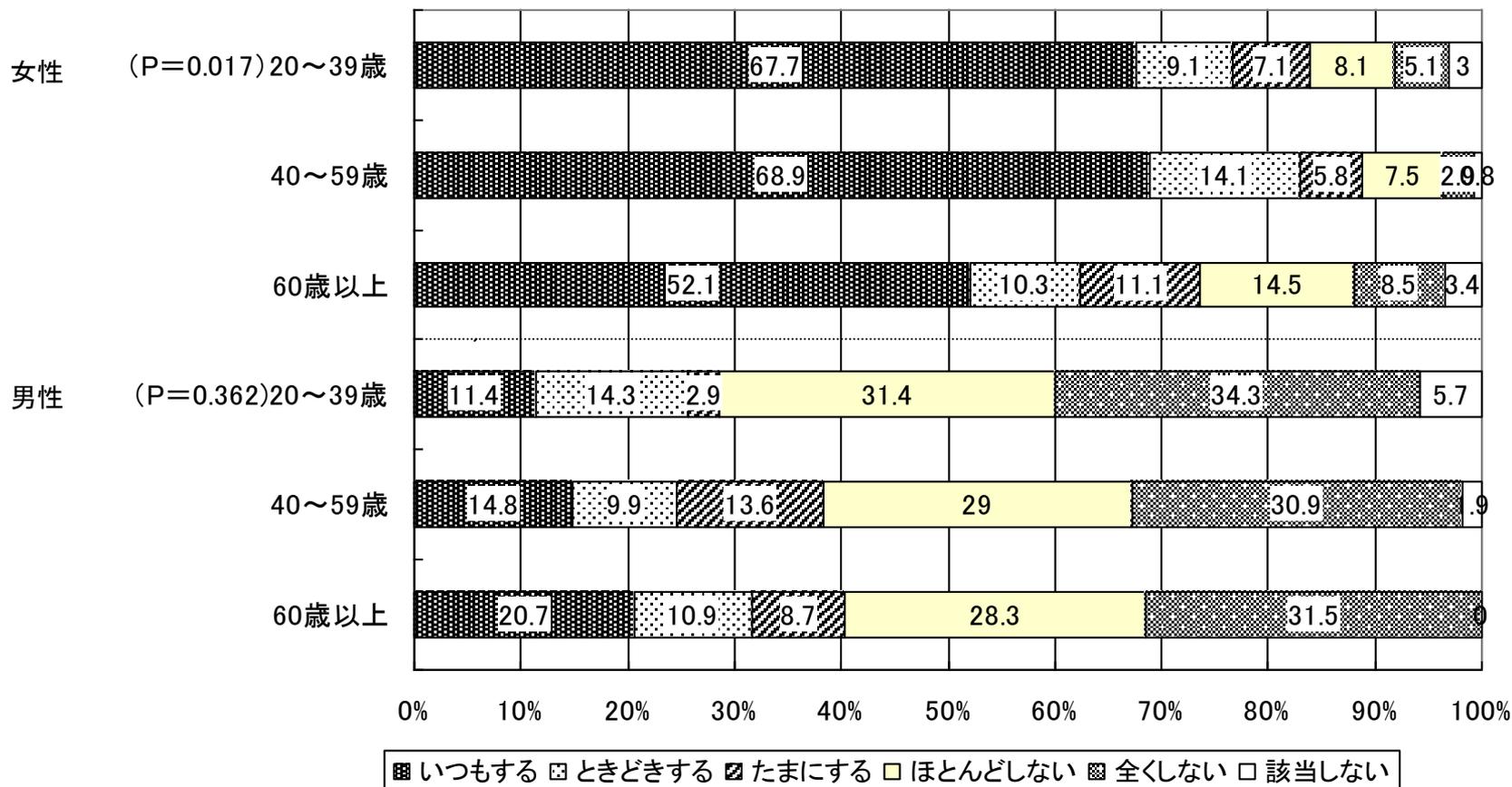
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

家計の管理(男女・年代別)[単身者除く]

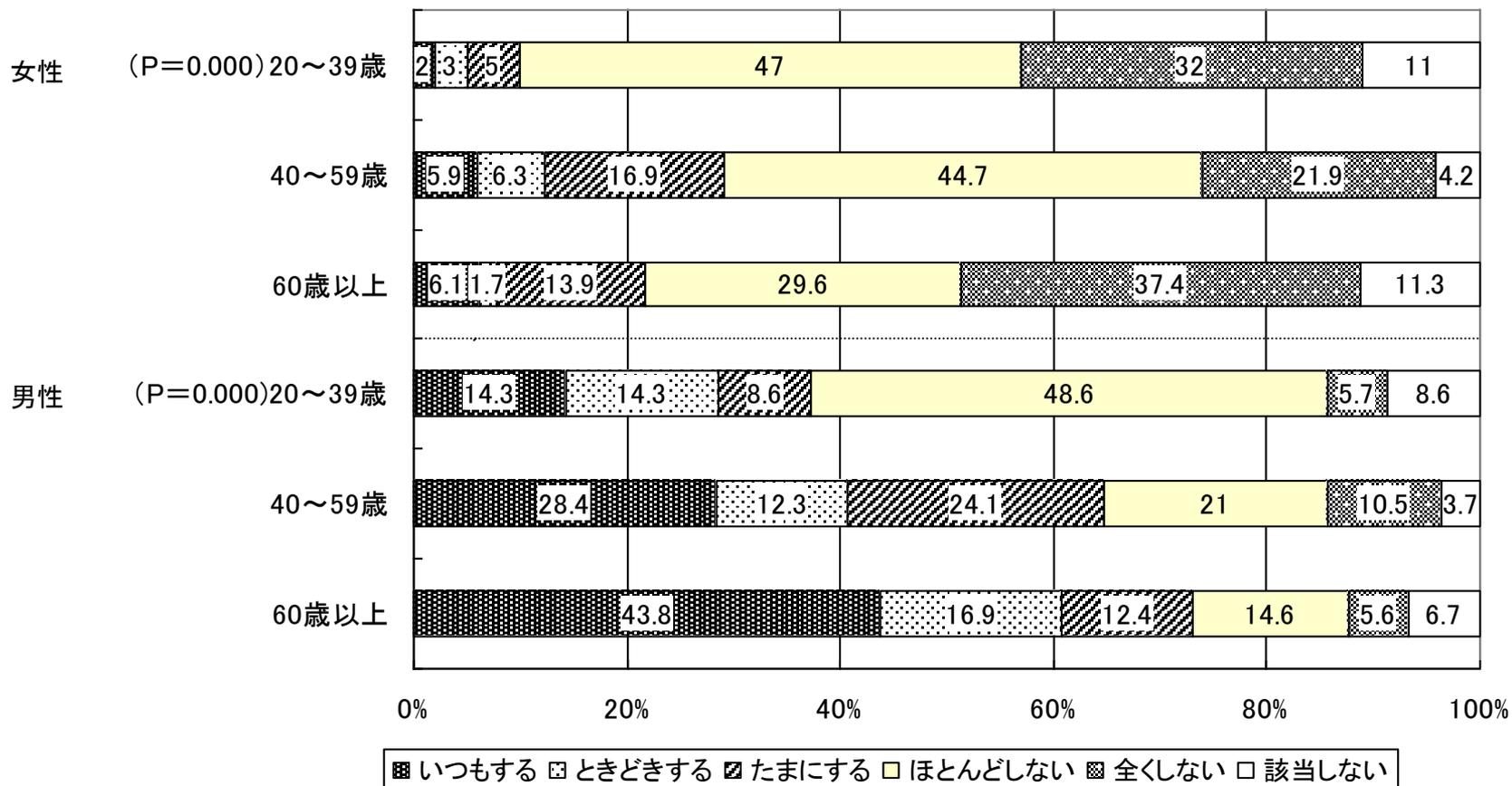
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

高額な買物〔車、住宅など〕(男女・年代別)〔単身者除く〕

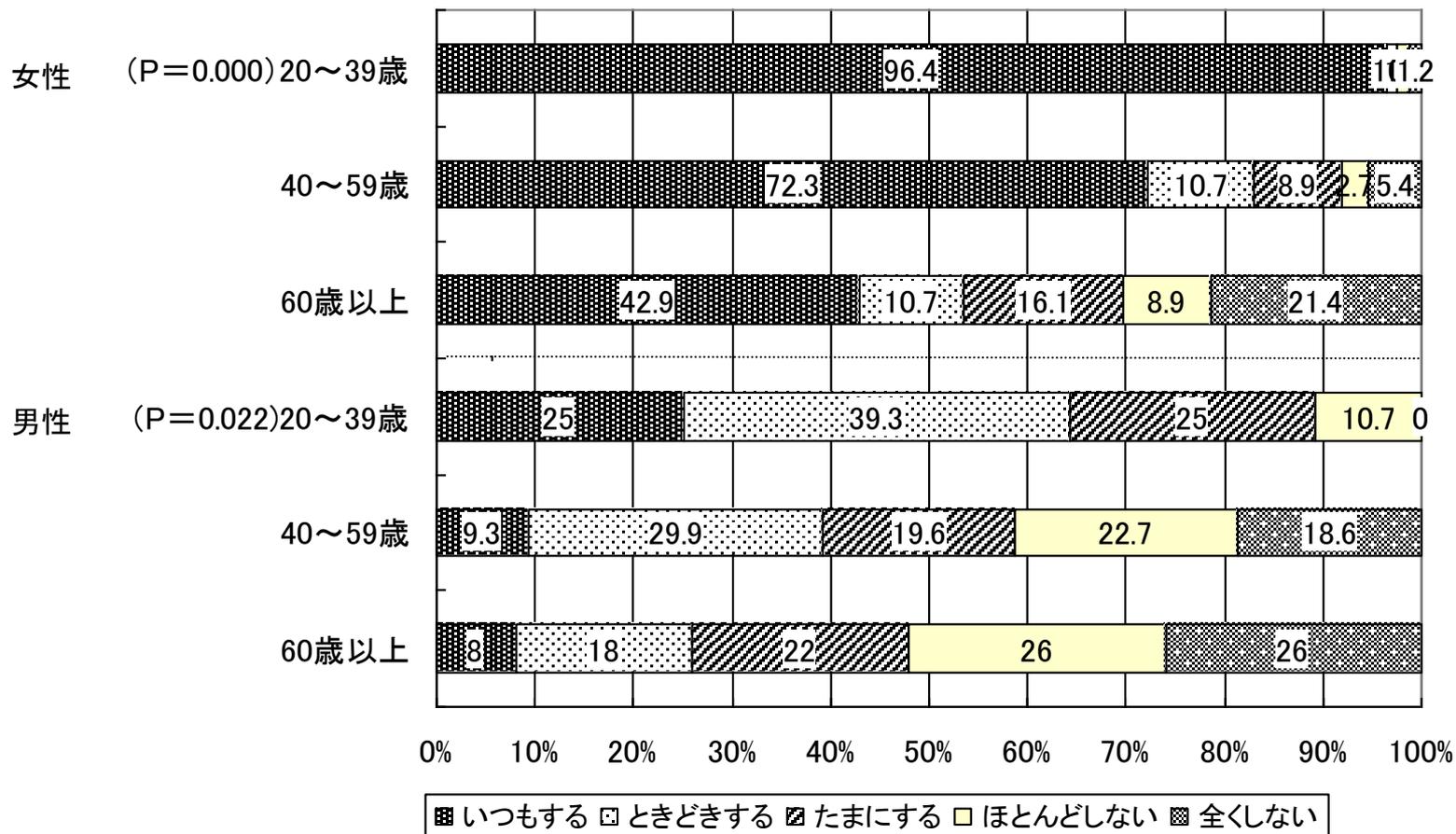
〔漸近有意確率(両側)〕



◇福井県における男女の家事実施

乳幼児の世話(男女・年代別)[非該当を除く]

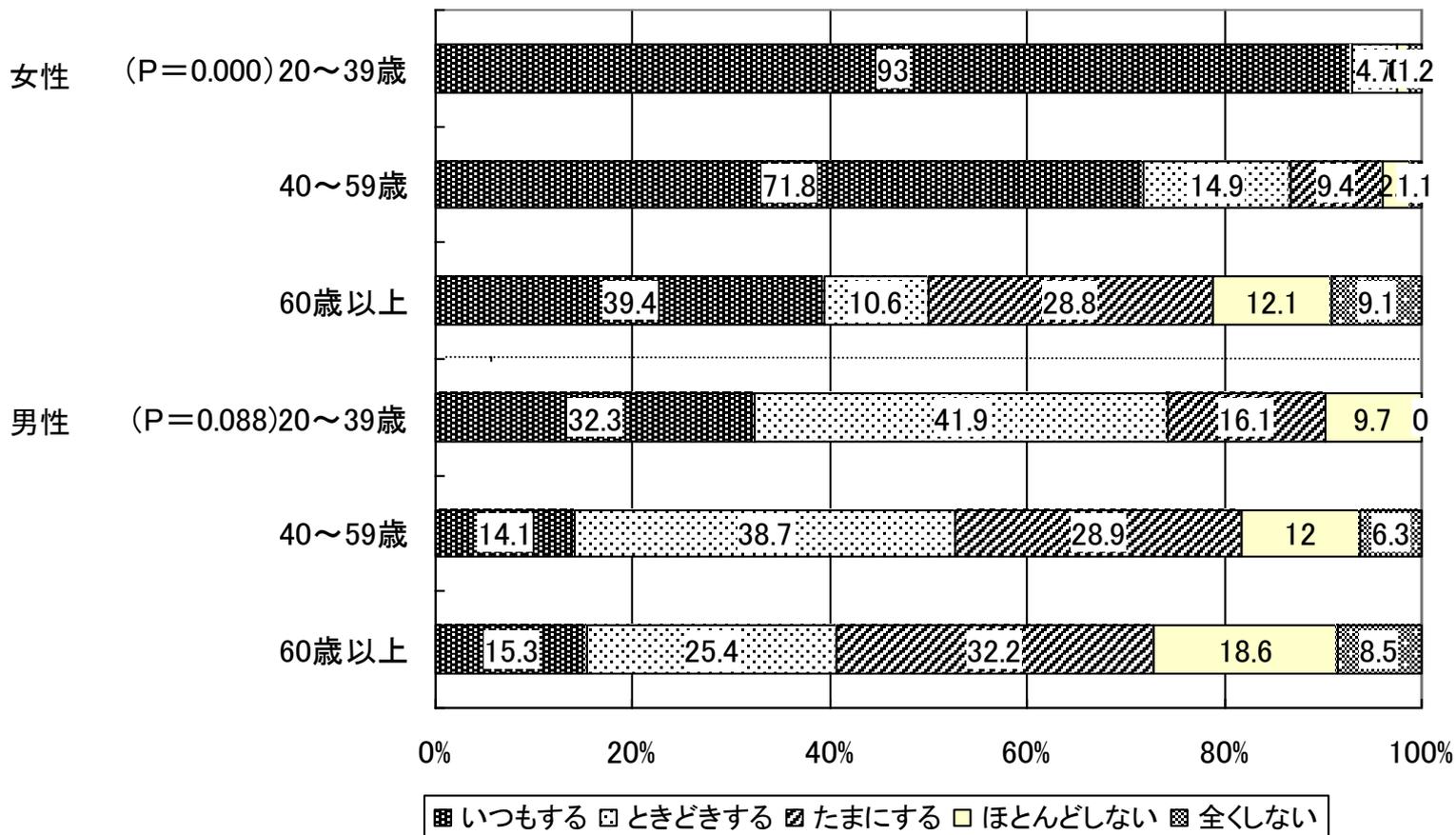
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

子供のしつけ、教育(男女・年代別)[非該当を除く]

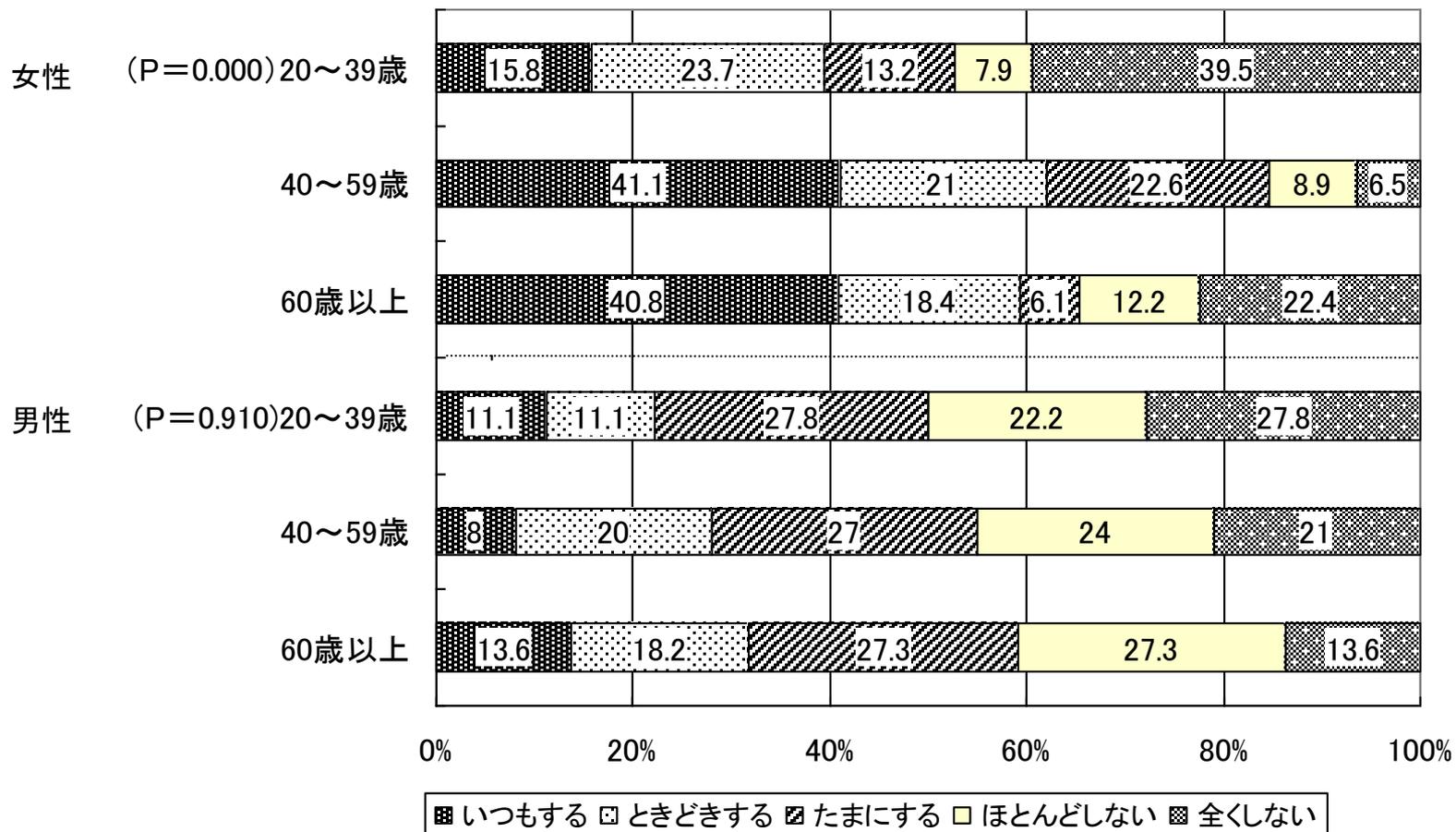
[漸近有意確率(両側)]



◇福井県における男女の家事実施

老人の世話や介護(男女・年代別)[非該当を除く]

[漸近有意確率(両側)]



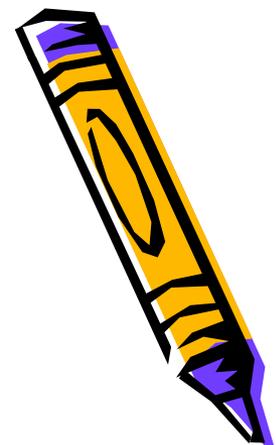
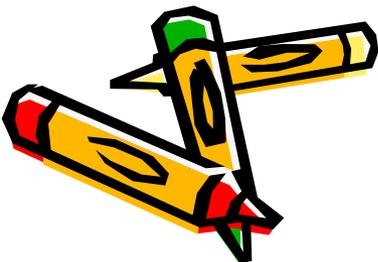
◇家事分担と余暇時間

福井県の有業の女性の2次活動

(家庭や社会の一員としての義務的行動のことで、仕事や家事、育児、介護等を指す)
の平均時間は9時間3分(全国8時間42分)で、全国第3位の長さ

一方、福井県の有業の男性の趣味・余暇の平均時間は49分(全国42分)で、
これも全国第3位の長さ

[総務省『社会生活基本調査』平成18年]

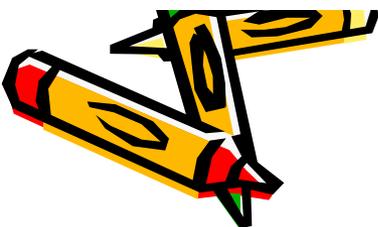
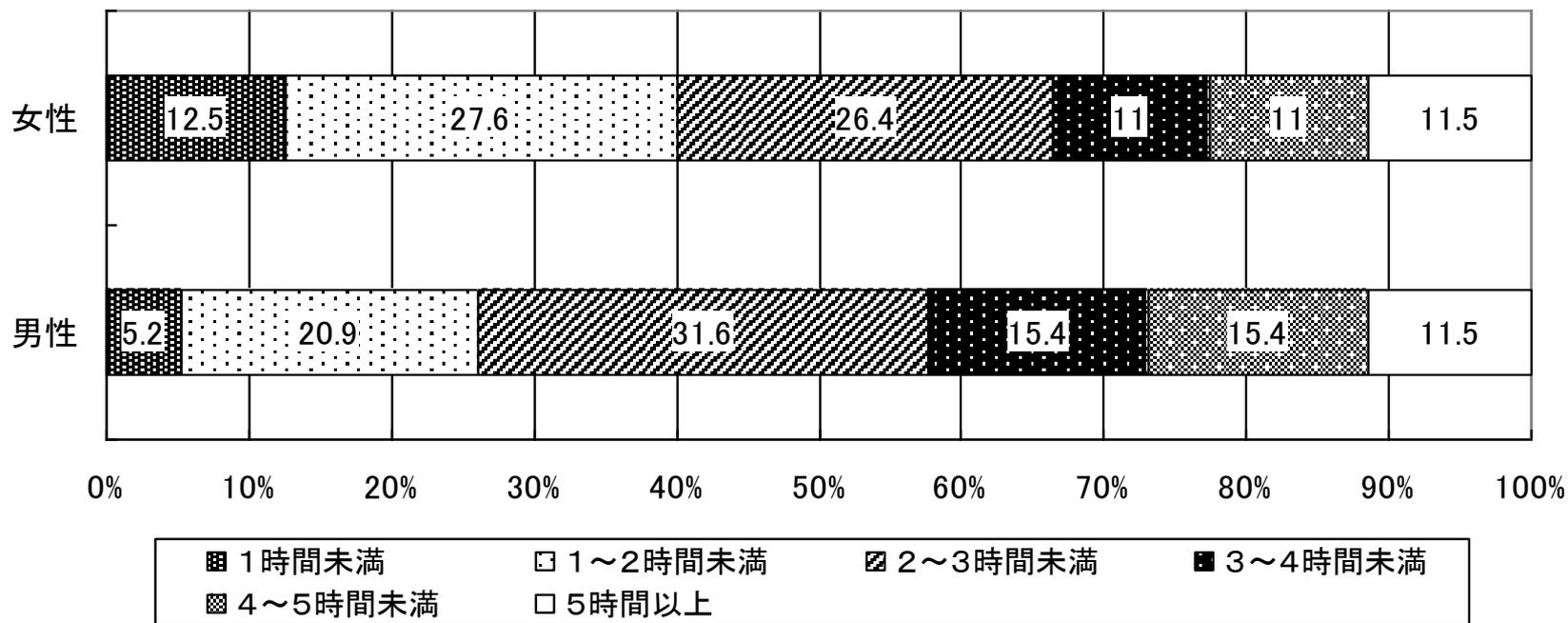


◇家事分担と余暇時間



平日に自由に使える時間(男女別)

漸近有意確立(両側)
P=0.000

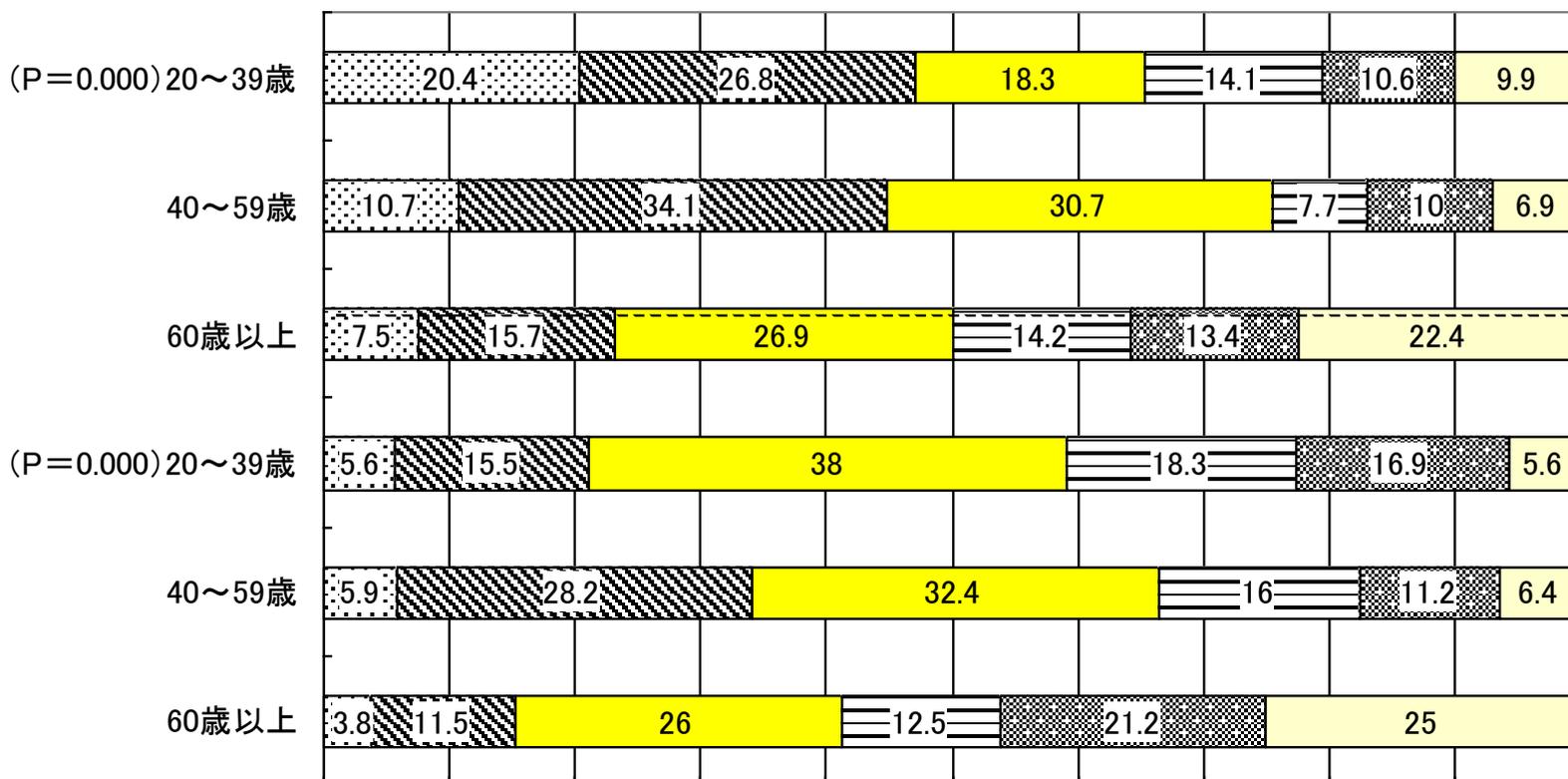


◇家事分担と余暇時間

平日に自由に使える時間(男女・年代別)

[漸近有意確率(両側)]

女性

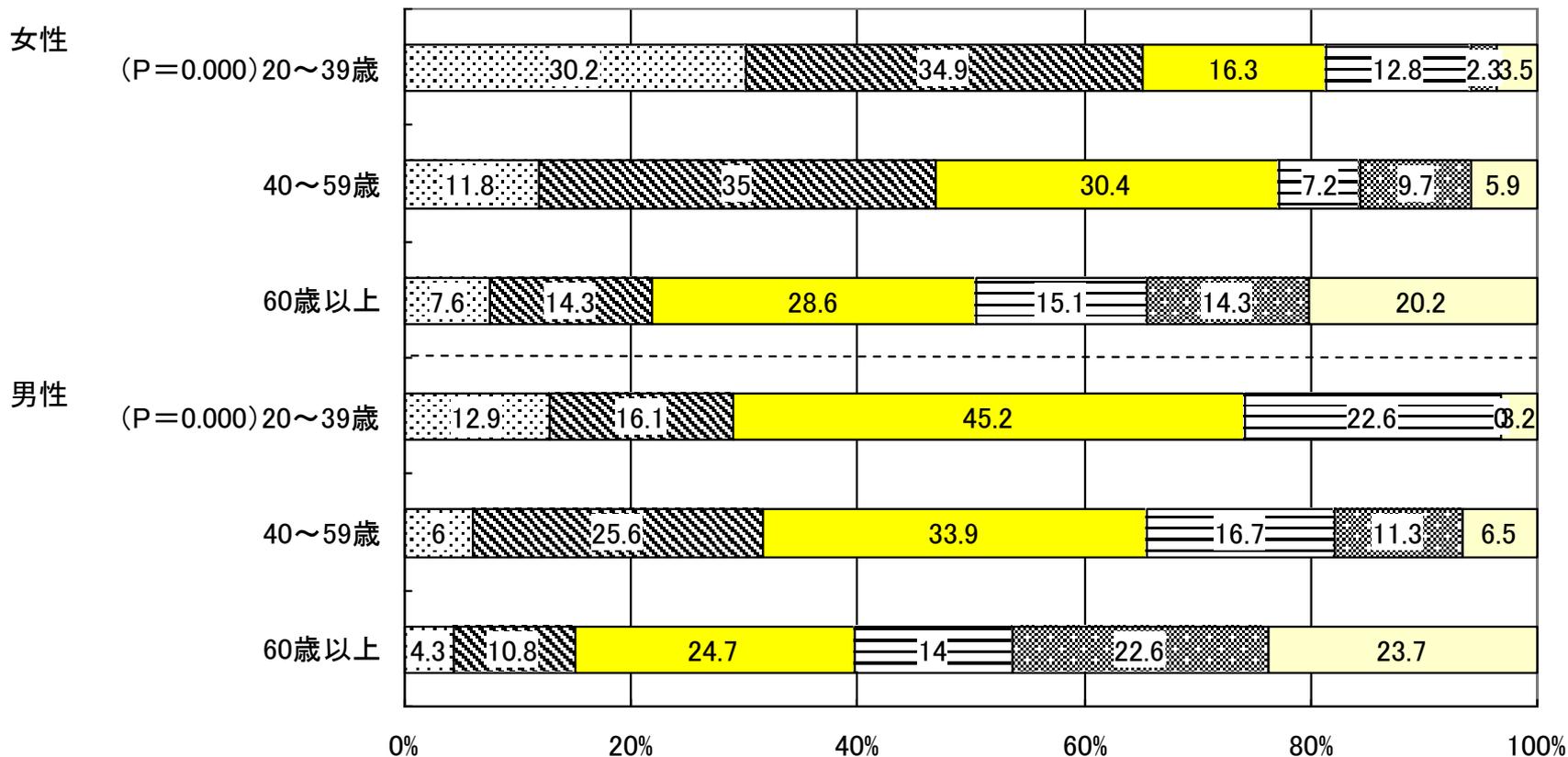


□ 1時間未満 ■ 1~2時間未満 ■ 2~3時間未満 □ 3~4時間未満 ■ 4~5時間未満 □ 5時間以上 %

◇家事分担と余暇時間

平日に自由に使える時間(男女・年代別)[子どもあり]

[漸近有意確率(両側)]

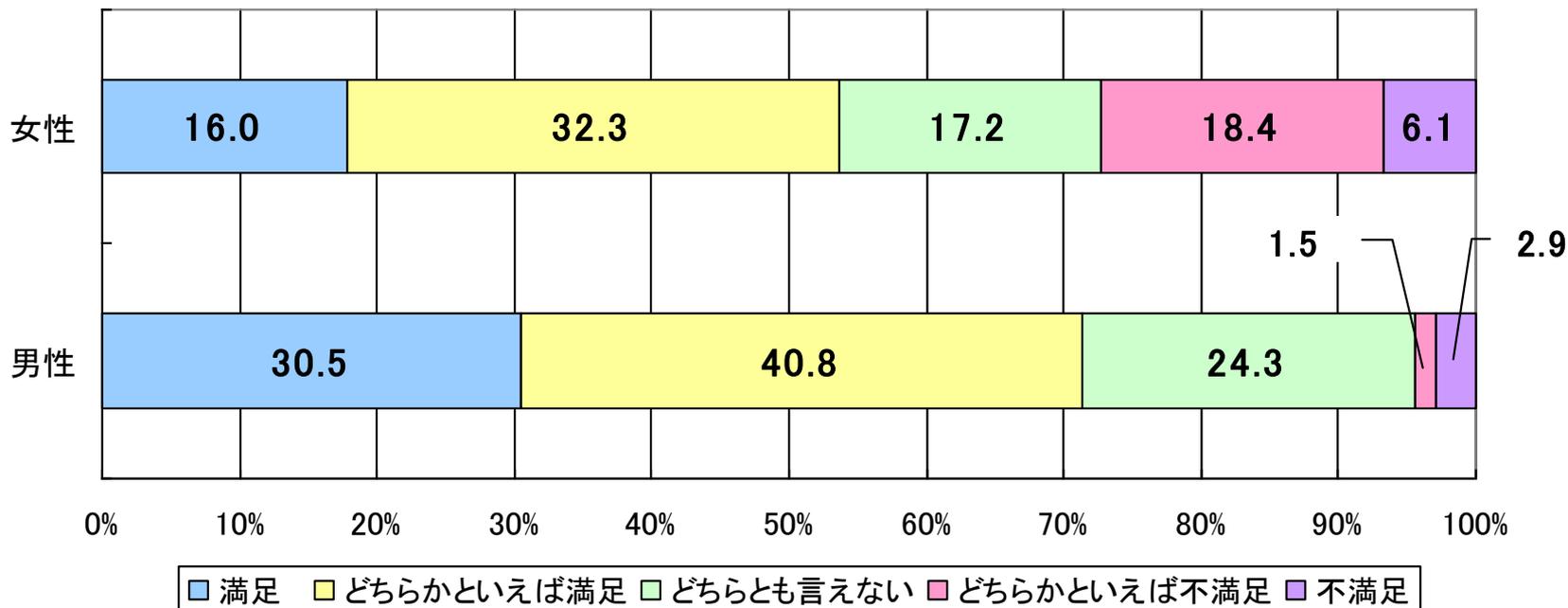


1時間未満
 1~2時間未満
 2~3時間未満
 3~4時間未満
 4~5時間未満
 5時間以上

◇家事分担の満足度

家事分担の満足度(男女別)

漸近有意確率(両側)
P=0.000

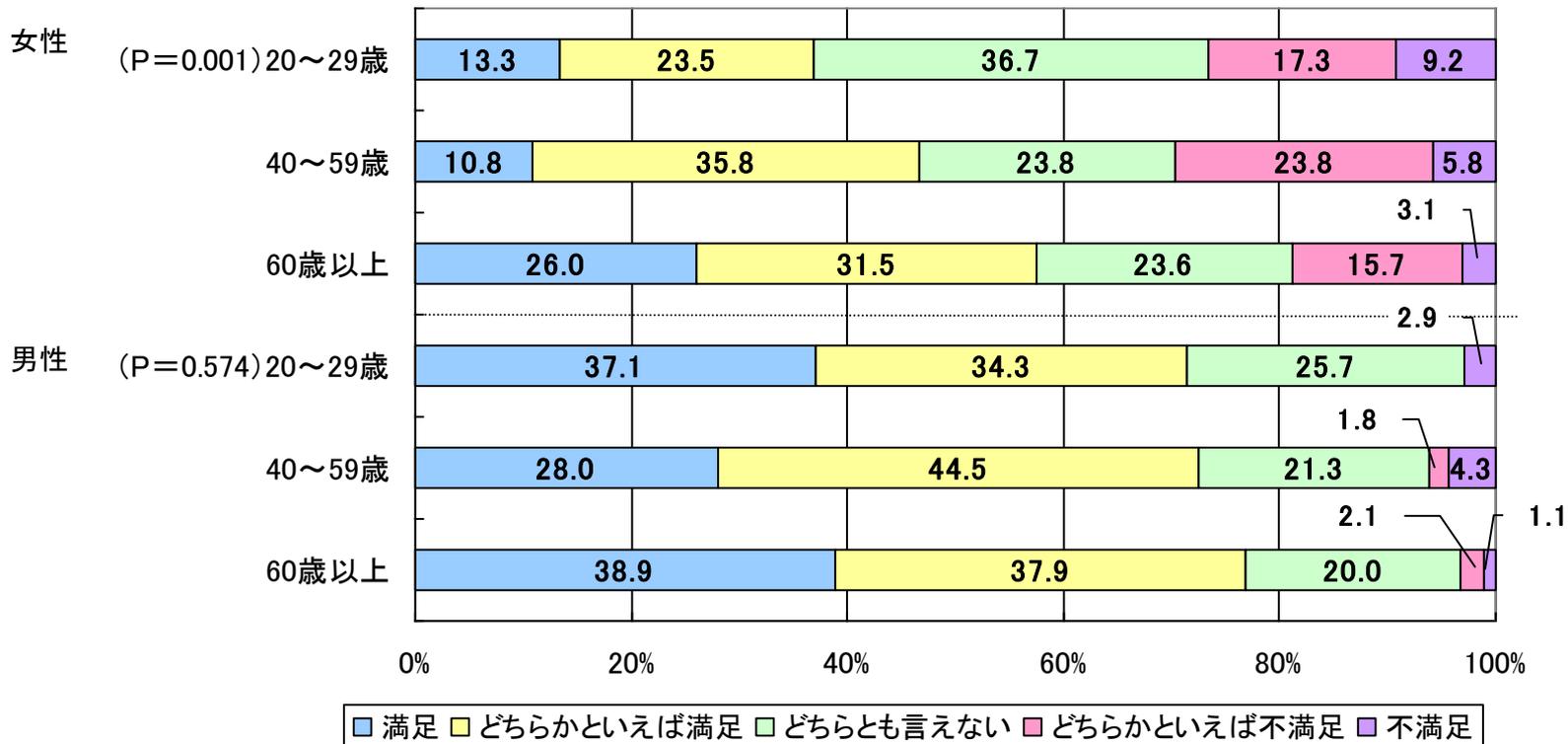


『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

◇家事分担の満足度

家事分担の満足度(男女・年代別)[既婚者(単身者除く)]

[漸近有意確率(両側)]



『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

家事の実施頻度(男性)	男性の性別役割分業意識	男性の週あたりの平均労働時間
食事のしたく	$r = -0.186$	$r = 0.135$
食事のあとかたづけ	$r = -0.242$	$r = 0.189$
洗濯	$r = -0.142$	$r = 0.161$
食料品等の日常の買い物	$r = -0.170$	$r = 0.082$
掃除	$r = -0.155$	$r = 0.160$
ごみ出し	$r = -0.064$	$r = 0.079$
家計の管理	$r = -0.068$	$r = 0.052$
高額な買い物 [車、住宅など]	$r = -0.026$	$r = 0.003$
家の補修や家庭用品の修理	$r = -0.046$	$r = 0.072$
乳幼児の世話	$r = -0.227$	$r = -0.045$
子どものしつけ、教育	$r = -0.080$	$r = 0.040$
老人の世話や介護	$r = -0.031$	$r = 0.094$

既婚で非単身の男女のデータから算出

rの値はSpearmanの順序相関係数

白色のセルは両側検定(1%水準)で有意な相関のあるもの

家事の実施頻度(女性)	女性の性別役割分業意識	女性の週あたりの平均労働時間
食事のしたく	$r = 0.015$	$r = 0.090$
食事のあとかたづけ	$r = 0.032$	$r = 0.043$
洗濯	$r = -0.031$	$r = 0.005$
食料品等の日常の買い物	$r = -0.081$	$r = 0.082$
掃除	$r = 0.063$	$r = 0.150$
ごみ出し	$r = 0.008$	$r = 0.100$
家計の管理	$r = 0.010$	$r = 0.052$
高額な買い物 [車、住宅など]	$r = -0.046$	$r = -0.124$
家の補修や家庭用品の修理	$r = 0.057$	$r = -0.001$
乳幼児の世話	$r = -0.091$	$r = 0.087$
子どものしつけ、教育	$r = -0.089$	$r = -0.036$
老人の世話や介護	$r = -0.008$	$r = -0.040$

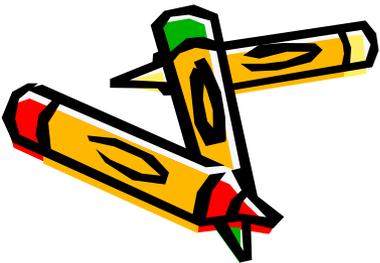
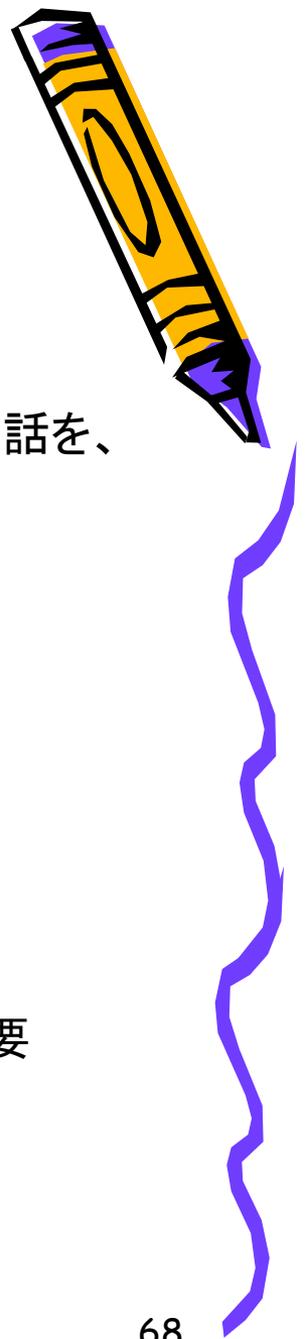
◇家事分担の規定要因

性別役割分業に関して、平等意識の高い男性ほど、
食事のしたく・あとかたづけ、洗濯、日常の買い物、掃除、乳幼児の世話を、
よくおこなっている

性別役割分業に関する女性の平等意識の高さは、
女性の家事実施の頻度に、直接的には影響しない



女性の多重負担の問題の解決のためには、男性の意識が変革が必要



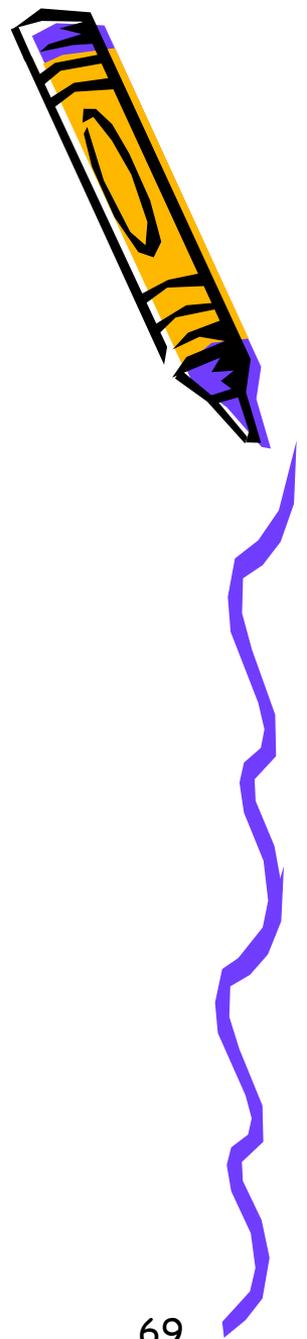
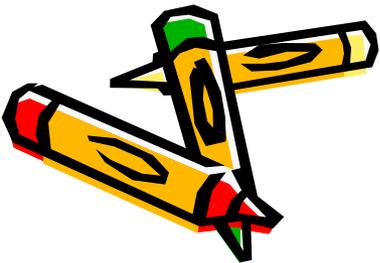
◇家事分担の規定要因

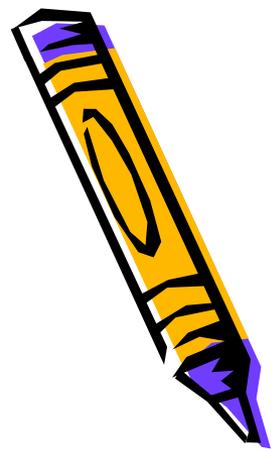
週あたりの平均労働時間の短い男性ほど、
食事のしたく・あとかたづけ、洗濯、掃除を、
よくおこなっている

女性の週あたりの平均労働時間の長さは、
掃除の実施頻度(延期による省力化の利用)と、
高額の買い物における意志決定に影響する



ワーク・ライフ・バランスに関して主体的な選択が可能になるよう
条件整備を促進していくことが必要





◇福井県の女性の政策方針決定過程への参画状況

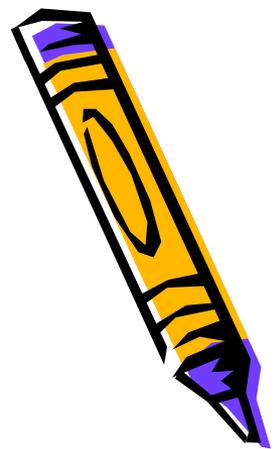
◇福井県の地方議会における女性議員の割合

	議員定数(人)	女性議員数(人)	女性議員の割合	※全国平均
県	40	0	0.0%	7.2%
市町	385	23	6.0%	8.8%
市	235	17	7.2%	11.0%
町	150	6	4.0%	6.4%

福井県男女共同参画年次報告書(平成18年度版)より

※全国平均は内閣府男女共同参画局(平成17年12月31日現在)





◇福井県の女性の政策方針決定過程への参画状況

◇福井県の町内会長における女性の状況(1月末現在)

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
総数(人)	3,732	3,734	3,771	4,006
うち女性数(人)	40	50	45	48
女性比率(%)	1.1	1.3	1.2	1.2

福井県男女共同参画年次報告書(平成18年度版)より





◇福井県の女性の政策方針決定過程への参画状況

◇福井県の農業水産業分野における女性の参画状況

	総数(人)	うち女性(人)	女性比率
農業就業人口	36,131	20,281	56.1%
漁業就業人口	2,282	242	10.6%
農業協同組合正組合員	55,070	6,282	11.4%
農業協同組合役員	382	5	1.3%
漁業協同組合正組合員	3,480	205	5.9%
漁業協同組合役員	185	3	1.6%
市町農業委員	420	23	5.5%

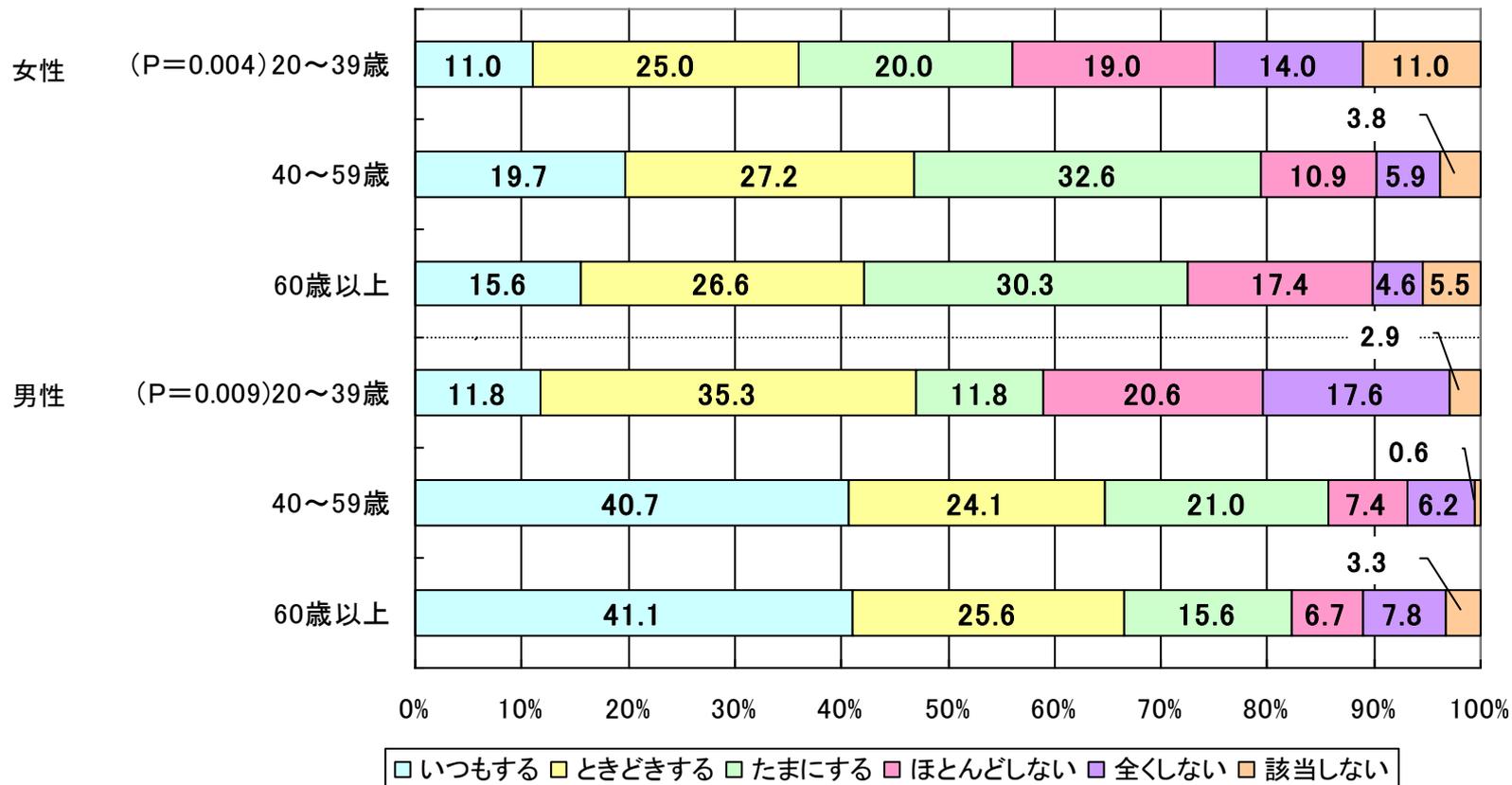
福井県男女共同参画年次報告書(平成18年度版)より



◇地域活動への参加・関与

自治会などの地域活動(男女・年代別)[単身者除く]

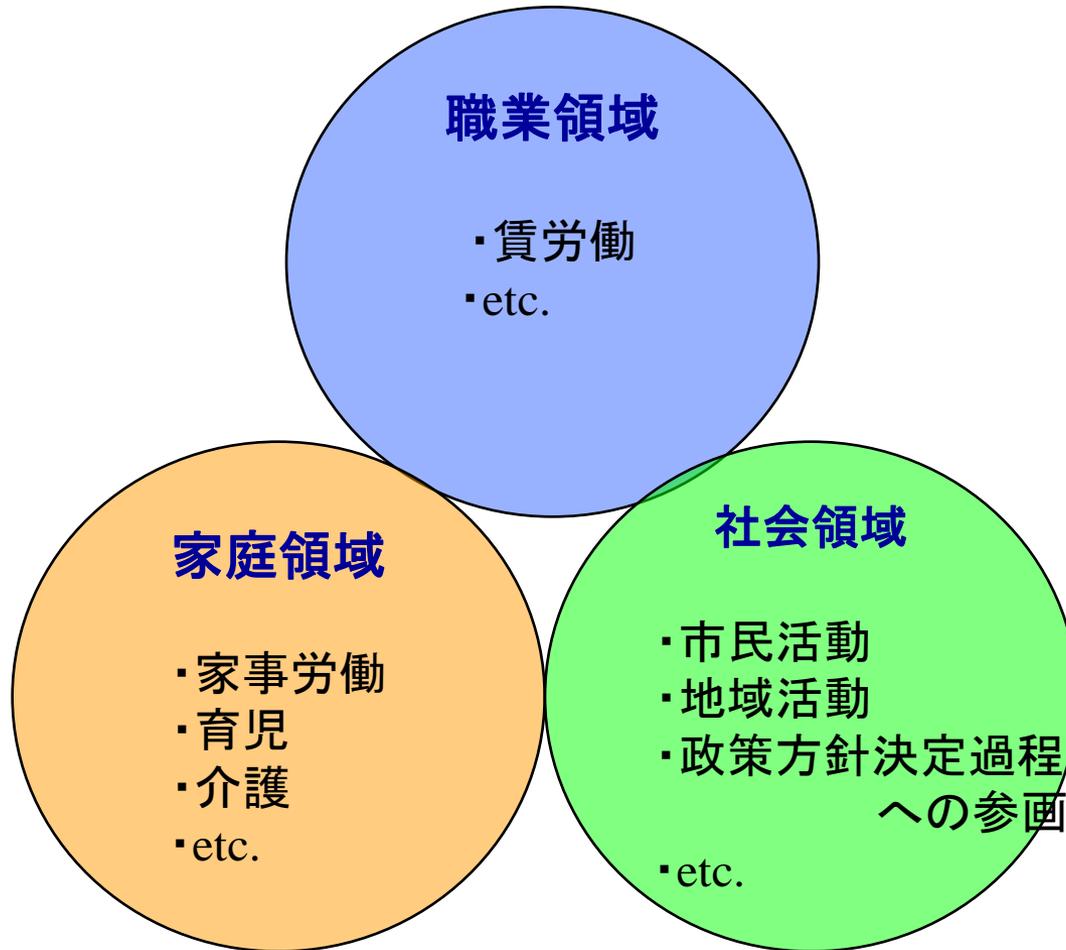
[漸近有意確率(両側)]



『女性の就業と生活の質に関するアンケート調査』(平成15)のデータから作成

◇生活における社会参加の位置

主要な活動領域



社会活動に使える時間は、賃労働、不払労働との関係で決まってくる

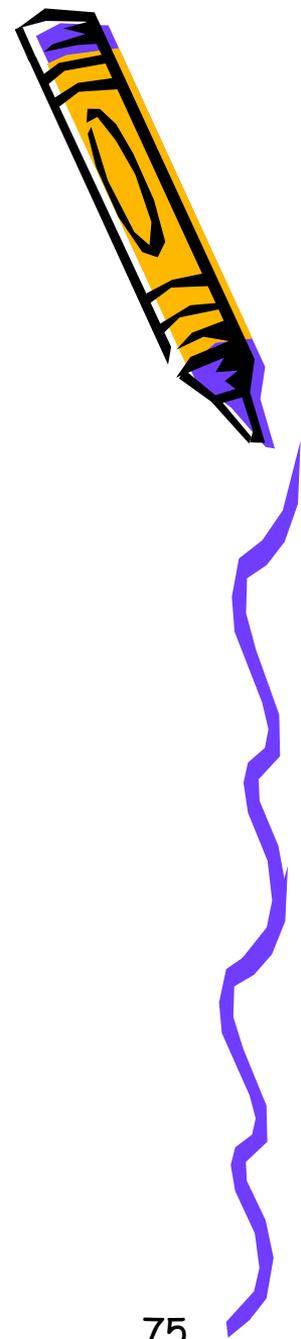
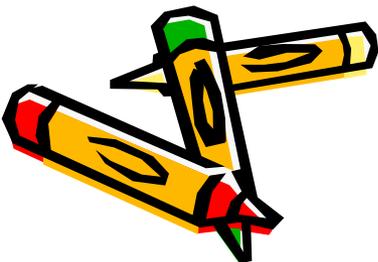
◇生活における社会参加の位置

社会活動(社会参加)にどの程度、時間がかけられるかは、他の諸活動とのバランスで決まってくる

ウェートのかけ方や時間配分の工夫の余地はあるものの、誰にとっても1日は24時間しかない



社会活動への参加の一番の制約条件は、時間的な要因



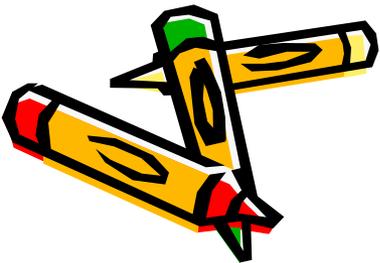
◇ライフスタイルの変化のモデルとしての福井

労働市場のグローバル化にともなう雇用の流動化が進む中、「共働き」のライフスタイルが、なお一層、一般化してくることが予測される。

「共働き」社会で、相対的な未婚率の低さと出生率の高さを維持している福井県のライフスタイルは、一つのモデルとして注目される。

福井のライフスタイルを可能にしている条件として、福井型の修正拡大家族の存在と女性の多重負担を指摘することができる。

女性の多重負担に依存し続けることは困難であり、望ましくもないので、ワーク・ライフ・バランスの主体的な選択を可能にし、女性の意志決定過程への参画を進めるための取り組みを、さらに進める必要がある。



ご静聴ありがとうございました

